

令和3年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業
HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学調査と情報の普及啓発方法の開発
ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究
分担研究報告書

研究分担課題名：HIV感染妊娠に関する研究の統括と情報の普及啓発方法の開発および診療体制の整備と均てん化

研究分担者：喜多恒和 奈良県総合医療センター周産期母子医療センター長兼産婦人科統括部長

研究協力者：

1)研究統括チーム

喜多恒和	奈良県総合医療センター周産期母子医療センター/産婦人科 センター長/統括部長
佐久本薫	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 嘱託医師
佐道俊幸	奈良県総合医療センター産婦人科 部長
外川正生	大阪市立総合医療センター小児総合診療科 主任部長
宮木康成	医療法人緑風会三宅おおふくクリニック 院長 Medical Data Labo 代表
榎本美喜子	奈良県総合医療センター産婦人科 研究補助員

2)国民への情報普及啓発チーム

高野政志	防衛医科大学校病院産婦人科 教授
浅野 真	東京都立大塚病院産婦人科 医員
石橋理子	奈良県総合医療センター産婦人科 医長
佐野 貴子	神奈川県立衛生研究所 微生物・主任研究員
鈴木 ひとみ	国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター HIV コーディネーターナース
谷村憲司	神戸大学大学院研究科外科系講座 産婦人科分野 准教授
多田和美	獨協医科大学医学部・大学院産婦人科講座 講師
中野瑞紀	仙台医療センター母子医療センター 助産師
長與 由紀子	九州医療センターAID/HIV 総合治療センター HIV 専任看護師
羽柴 知恵子	名古屋医療センター看護部エイズ治療開発センター HIV コーディネーターナース
廣瀬 紀子	山梨県立北病院医療安全管理室 看護師長
松田秀雄	松田母子クリニック 院長
桃原祥人	JA とりで総合医療センター産婦人科 部長
森實真由美	美ら海ハシイ産婦人科 院長
渡邊 英恵	豊橋医療センター看護部 看護師長

3)医療従事者への情報普及啓発と診療体制の整備と均てん化チーム

出口雅士	神戸大学大学院医学研究科外科系 講座産婦人科学分野 特任教授
------	--------------------------------

五味淵秀人	吉田産科婦人科医院 医師
定月みゆき	国立国際医療研究センター産婦人科 産科部長
杉野祐子	国立国際医療研究センターエイズ 治療・研究開発センター HIV コーディネーターナース
中西美紗緒	国立国際医療研究センター産婦人科 医師
中西 豊	名古屋医療センター産婦人科 部長
中野真希	横浜市立市民病院 NICU/GCU 病棟 看護師長 (助産師)
蓮尾泰之	九州医療センター産婦人科 部長
羽柴 知恵子	名古屋医療センター看護部エイズ 治療開発センター HIV コーディネーターナース
林 公一	関門医療センター産婦人科 部長

研究要旨：

「HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学調査と情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」の研究分担課題「HIV 感染妊娠に関する研究の統括と情報の普及啓発方法の開発および診療体制の整備と均てん化」として、①研究の進捗状況と途中成績を相互評価し研究計画の修正、②HIV 感染妊娠に関わる国民の知識向上、③HIV の母子感染やスクリーニング検査の偽陽性および性感染症に関する理解度など妊婦の知識レベルの変化を把握し、教育啓発効果を検証、④HIV をはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発方法を、ツイッターやホームページ以外の手段として開発、⑤HIV 感染妊婦の分娩が可能と回答している施設に対して、経膈分娩の適応条件と安全性に関する情報を提供した上で、アンケートによる第3次実態調査を行った。研究成果を以下に示す。研究班ホームページをスマートフォンにも対応可能とし、研究報告書、リーフレットや小冊子、国内外の情報を掲載した。小冊子を電子書籍化し、リーフレットのクイズをウェブ化して閲覧者の関心の向上を図った。ツイッター上で HIV に関する情報を毎週発信した。ホームページ閲覧のアクセス数解析と掲載 PDF のダウンロード数解析では、ガイドライン・マニュアル・リーフレットのページやこれに含まれる PDF の閲覧が増加傾向である。妊娠初期妊婦へのアンケート調査では、回答数は定点施設から 231 例、奈良市内診療所から 252 例、合計 483 例であった。HIV スクリーニング検査の結果が陽性でも、その 95%は偽陽性であることを知っていたのはたった 6.9%であったが、配布資料により 58%がさらに知ることとなった。資料の配布とアンケート調査により HIV 感染についての知識が増えたと回答したのは 96.6%に上り、資料を読んでいない妊婦においても 89.1%で知識が増えたと回答している。配布資料を読むことで各質問に対して「読んで知った」と回答したのは 26.4%～58.0%におよんだ。小冊子やリーフレットと名刺サイズ宣伝カードの全国自治体や保健所への配布により、リーフレットには 4,030 部、小冊子には 8,490 部の提供依頼があった。小冊子の拡散目的に SNS におけるインフルエンサーにフェイスブックでの投稿を依頼し、数日間で小冊子閲覧クリック数は 1,390 回を得た。さらに、新型コロナウイルス感染蔓延のため、AIDS 文化フォーラム in 横浜でウェブ講座を担当し、100 名以上の参加者を得た。HIV 感染妊婦の分娩が可能と回答している施設に対する第3次アンケート調査から、HIV 感染妊婦との対応時間が多い順、すなわち産科担当看護職と産科担当医師、次いで新生児担当看護職と新生児担当医師、そして分娩前後での対応時間が少ない感染症担当医師・看護職の3群の順で、経膈分娩の導入への抵抗感が高い傾向にあった。HIV 感染妊婦自身の希望と医療従事者の意見および医療体制の現状を考慮して、欧米とは異なるわが国独自の診療方針を示すガイドラインに改訂していく必要がある。

る。

A.研究目的

- ①研究の進捗状況と途中成績を相互評価し研究計画の修正を行う。
- ②HIV 感染妊娠に関わる国民の知識向上を図る。
- ③HIV の母子感染やスクリーニング検査の偽陽性および性感染症に関する理解度など妊婦の知識レベルの変化を把握し、教育啓発効果を検証する。
- ④HIV をはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発方法を、ツイッターやホームページを応用する手段として開発する。
- ⑤HIV 感染妊婦の分娩が可能と回答している施設に対して、令和3年度に経膈分娩の適応条件と安全性に関する情報を提供した上で、アンケートによる第3次実態調査を行う。

B.研究方法

1)研究統括チーム

①研究分担者相互による研究計画評価会議や、研究協力者も加えた全体班会議を行い、研究の進捗状況と途中成績を相互評価し研究計画の修正を行う。

2)国民への情報普及啓発チーム

②研究班ホームページ上で研究成果や HIV 感染妊娠に関する国内外の情報を適時公開し、HIV 感染妊娠に関わる国民の知識向上を図る。さらにホームページの表示形態を PC 用に加えスマートフォンにも対応できるものとする。さらにツイッター上でも情報提供を行う。

③地域や医療レベルの異なる6か所の定点施設および奈良市内5か所の有床診療所の妊娠初期妊婦に対し、HIV をはじめとする性感染症に関する一般国民向けリーフレット「クイズでわかる性と感染症の新ジョーシキーあなたはどこまで理解しているか!？」や小冊子「HIV や梅毒をはじめとする性感染症のすべてが簡単にわかる本」を配布した上で、HIV 感染や性感染症に関するアンケート調査を毎年行う。これにより HIV の母子感染やスクリーニング検査の偽陽性および

性感染症に関する理解度など妊婦の知識レベルの変化を把握し、教育啓発効果を検証する。

④妊婦を含めた若者に対して、リーフレットや小冊子などを用いた HIV をはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発方法を開発する。

3)医療従事者への情報普及啓発と診療体制の整備と均てん化チーム

⑤HIV 感染妊婦の分娩が可能と回答している109施設に対して、令和3年度に経膈分娩の適応条件と安全性に関する情報を提供した上で、アンケートによる第3次実態調査を行う。この調査結果はマニュアルやガイドラインの改訂に資し、適切で実行可能な HIV 感染妊婦の診療体制の整備と均てん化につなげる。

(倫理面への配慮)

当班の研究は、HIV 感染に関わる産科医療と小児医療および社会医学の中で行われることから、基本的に「倫理面への配慮」は欠くべからざるものである。細心の注意をもって対処する。調査研究においては、文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守しプライバシーの保護に努める。個人の識別は本研究における通し番号を用い、各情報は登録番号のみで処理されるため、個人情報が漏洩することはない、またデータから個人を特定することも不可能である。きわめてプライバシー保護要求レベルが高い対象の個人情報を求める調査が必要であることから、研究計画は研究代表者並びに研究分担者が所属する施設の倫理審査委員会の承認を得ることとし、調査結果を公表する場合は個人情報の保護を第一義とする。

C.研究結果

1)研究統括チーム

①研究計画評価会議（令和3年5月8日と11月23日）と全体班会議（令和3年6月12日と令和

4年2月20日)を各2回実施し、途中成果と研究計画の修正を行った。また国民への情報普及啓発チームや医療従事者への情報普及啓発と診療体制の整備と均てん化チームへのサポートを行った。

2)国民への情報普及啓発チーム

②ホームページとツイッターの運営

研究班ホームページをスマートフォンにも対応可能とした。

研究報告書、リーフレットや小冊子、国内外の情報を掲載した。

図1に示すように、小冊子を電子書籍化し、PCやスマートフォン上で読みやすくし、加えてリーフレットの表面のクイズをウェブ化し、正解率などを表示して閲覧者の関心の向上を図った。

ツイッター上でHIVに関する情報を発信し(コンテンツ62件、フォロワー303人)、さらに性感染症に関する豆知識を令和4年1月から毎週発信した。さらに豆知識の月間まとめ版をホームページ上で毎月掲載した。

ホームページ閲覧のアクセス数解析(表1-1、表1-2)と、掲載情報PDFのダウンロード数解析(表2、表3-1、表3-2)を行った。ホームページ閲覧数は令和元年度14,339件、令和2年度22,739件、令和3年度(2月まで)17,447件で、残念ながら閲覧数の増加傾向はみられない。月間の閲覧数と各種イベントとの関連も、12月1日の世界エイズデー前後の閲覧数の増加以外は明確ではなかった。ホームページのページ別解析では、HOME、ガイドライン・マニュアル・リーフレット、Q&Aのページの閲覧が主体で、ガイドライン・マニュアル・リーフレットのページの閲覧が増加傾向である。またホームページに掲載されている各種PDFへのアクセス数は、小冊子・リーフレット・Q&Aなどの啓発資料やガイドライン・マニュアルおよび研究報告書で多かった。

関連HPとのリンクでは、令和3年度は6か所のHIV感染症診療病院や関連団体からリンクの依頼を得た。

③妊婦アンケート調査

妊娠初期妊婦へのアンケート調査は、全国定点の4施設、奈良市内有床診療所の4施設で実施された。アンケート依頼文を資料1に、アンケート内容は資料2-1と資料2-2に示す。結果を表4-1、表4-2、表4-3に示す。回答数は定点施設から231例、奈良市内診療所から252例、合計483例で、定点と奈良市内の回答内容に差はみられなかった。約80%は配布したリーフレットや小冊子を読んでおり、その97%は内容の50%以上を理解していた。HIVが母子感染することを70%が知っていたが、配布資料を読んでさらに27%が知ることとなった。HIVスクリーニング検査の結果が陽性でも、その95%は偽陽性であることを知っていたのはたった6.9%であったが、配布資料により58%がさらに知ることとなった。資料の配布とアンケート調査によりHIV感染についての知識が増えたと回答したのは96.6%に上り、資料を読んでもいない妊婦においても89.1%で知識が増えたと回答している。梅毒患者の増加を知っていたのは31.5%で妊娠中の治療による母子感染予防効果を知っていたのは17.1%のみであった。一方風疹では、妊娠前のワクチン接種の母子感染予防効果を知っていたのは65.4%と高率であった。配布資料を読むことで各質問に対して「読んで知った」と回答したのは26.4%~58.0%におよんだ。

④普及啓発方法の開発

研究班ホームページと小冊子・リーフレットを周知するために名刺サイズ宣伝カード(図2)を2種類作成した。全国自治体や保健所に小冊子やリーフレットに続いて配布するとともに、研究班ホームページにも掲載し、ダウンロードして名刺サイズ印刷が可能となるよう設定した。その結果、令和3年度において自治体、保健所、学校などから提供依頼があり、HIV検査受検者をはじめイベント参加者や若者への配布を目的に、リーフレットには4,030部、小冊子には8,490部の提供依頼があり対応した(表5)。さらに市町村の感染症担当部署へ名刺サイズ宣伝カードを郵送したので、次年度以降の研究班ホームページの閲覧やリーフレット・小冊子の周知と利用が期待される。

SNS におけるインフルエンサーにフェイスブックでの投稿を依頼し、性感染症に関する小冊子の周知拡散を期待した。図 3 に示すように、令和 3 年 12 月 8 日に投稿があり、4 日後の 12 月 12 日までの小冊子閲覧クリック数は 1,390 回であった。

さらに、新型コロナ感染蔓延下の状況で公開講座等の開催が制限される中、8 月 6 日にウェブで開催された AIDS 文化フォーラム in 横浜で公開講座を担当した。詳細は別に報告する。

3)医療従事者への情報普及啓発と診療体制の整備と均てん化チーム

⑤HIV 感染妊婦の分娩が可能と回答している施設に対する第 3 次アンケート調査

医療機関へのアンケート調査は、これまで平成 30 年度と令和 2 年度に行ってきた。今回は産科担当医師、産科担当看護職、新生児担当医師、新生児担当看護職、感染症担当医師・看護職の 5 職種を個別に対象とした第 3 次アンケートを令和 4 年 2 月に実施した。詳細は別に報告する。

D. 考察

新型コロナ感染拡大の影響で、対面での研究計画評価会議や研究班全体会議がウェブ開催となり、十分な討議ができなかったが、当初の研究計画はほぼ達成されたと考える。

ホームページの運営では、スマートフォン対応の設定追加、リーフレットのクイズのウェブ化や小冊子の電子書籍化など掲載資料の追加に加えて機能性の向上を図ってきたが、それらの効果を数値化することはできていなかった。ツイッターでのコンテンツの増加効果についても同様である。それぞれホームページの閲覧数やツイッターのフォロワー数の増加により、拡散効果を推測できるものの、この 3 年間で大きな増加は認められない。しかしながらインフルエンサーのフェイスブックでの投稿は、短期間での情報拡散能力を持つことが確認された。しかしホームページのアクセス数解析では、令和 3 年 12 月の閲覧数や PDF ダウンロード数に、インフルエンサーの影響を観察できなかった。原因はフェイスブックの投稿文

に表示された URL は、ホームページ上の URL を縮小した異なるものであったため、アクセス数解析の対象にならなかったと考えられる。今後の解析方法を修正する必要がある。ホームページやツイッターの運営においては、情報の掲載を継続することとともに、各情報に対する閲覧者の動向を経時的に把握することで、より効果的な情報の拡散につながると考える。

妊婦へのアンケート調査から、HIV 感染や他の性感染症に関する知識レベルは低いままであることが判明した。しかし、妊娠初期妊婦へのリーフレットや小冊子の資料配布が、HIV や性感染症の知識向上に有効であることが確認された。妊婦健診、学校での出前講座、イベントでの配布資料、市民公開講座などの種々の機会を利用してリーフレットや小冊子を配布することで、国民の性感染症に関する知識の向上に寄与できると考えられる。またホームページやツイッターなどの SNS を通じて情報を拡散させることは大変有効であるが、これらを如何にして拡散させるかが重要な課題である。それには多くの分野における多くのインフルエンサーの協力が有効であると示唆された。

AIDS 文化フォーラム in 横浜への参加は、ウェブ開催ではあったが、研究班としては今年度唯一の公開講座であった。参加者の増加を図るべく、HIV 感染妊婦に加えて、新型コロナ感染妊婦の国内調査や HPV 感染に関連する子宮頸がんの情報について情報提供を行った結果、100 名以上の参加者を得たことは有効であったと思われる。

医療従事者への情報普及啓発と診療体制の整備と均てん化を目的とした医療機関への第 3 次アンケート調査では、産科担当医師、産科担当看護職、新生児担当医師、新生児担当看護職、感染症担当医師・看護職の 5 職種を個別に対象とした。その結果、HIV 感染妊婦との対応時間が多い順、すなわち産科担当看護職と産科担当医師、次いで新生児担当看護職と新生児担当医師、そして分娩前後での対応時間が少ない感染症担当医師・看護職の 3 群の順で、経膈分娩の導入への抵抗感が高

い傾向にあり、職種間で考え方がわかるように推測された。母子感染や水平感染などの医療安全管理に関して、理論上の理解と実臨床との間に乖離が生じている。

E. 結論

多岐にわたる研究分担課題のそれぞれで、当初の研究計画がほぼ完遂されたと考える。国民への情報普及啓発としてホームページやツイッターの運営は重要で、閲覧数やフォロワーの増加に繋げるには適正な情報提供や研究成果報告書の掲載に加えて、教育啓発資料の作成と掲載が必要である。さらに自治体・保健所・市町村に対し教育啓発資料を周知提供することが、若者を中心としてより広く国民の知識レベルの向上につながると考えられた。加えて、SNSにおけるインフルエンサーの協力によるホームページへの誘導や教育啓発資料の拡散は、今後の教育啓発方法の開発に大いに役立つことが確認された。HIV感染妊婦の経膈分娩の導入に関しては、HIV感染妊娠に携わる各種医療職の間で認識や意見が異なることが明らかとなった。HIV感染妊婦自身の希望と医療従事者の意見および医療体制の現状を考慮して、欧米とは異なるわが国独自の診療方針を示すガイドラインに改訂していく必要がある。

G. 研究業績

著書

1. 山田里佳、谷口晴記、出口雅士、塚原優己、井上孝実、千田時弘、大里和弘、中西 豊、定月みゆき、白野倫徳、鳥谷部邦明、田中瑞恵、杉野祐子、羽柴知恵子、渡邊英恵、喜多恒和：HIV感染妊娠に関する診療ガイドライン第2版。令和2年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」班編、2021

論文

1. 喜多恒和、吉野直人、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、定月みゆき、大津 洋：HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究。令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究総括研究報告書 福武勝幸 編、2021；120-123.
2. 吉野直人、田中瑞恵、岩動ちず子、伊藤由子、大里和弘、小山理恵、杉浦 敦、喜多恒和：HIV感染児の診察に関する全国調査。日本エイズ学会誌。2021；23（1）：33-38.
3. 佐野貴子、近藤真規子、櫻木淳一、中澤よう子：神奈川県および全国の HIV 検査動向とCOVID-19 パンデミックの影響について。病原微生物検出情報。2021；42(10): 217-218.

学会発表

1. 杉浦 敦、市田宏司、山中彰一郎、竹田善紀、中西美紗緒、太田 寛、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、佐久本 薫、喜多恒和：近年の HIV 母子感染に対する全国調査結果と EDC 化に向けた検討。第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会。新潟。Web、2021.4
2. 岩動ちず子、吉野直人、伊藤由子、大里和広、小山理恵、高橋尚子、杉浦 敦、喜多恒和：母子感染に関わる妊婦感染症検査実施率の全国調査。第 37 回日本産婦人科感染症学会学術集会。Web、2021.5
3. 山田里佳、喜多恒和、吉野直人、杉浦 敦、田中瑞恵、大津 洋：HIV 感染妊娠に関するガイドラインとマニュアルの改訂。第 37 回日本産婦人科感染症学会学術集会。2021.5
4. 伊藤由子、吉野直人、岩動ちず子、大里和広、小山理恵、高橋尚子、杉浦 敦、喜多恒和：妊娠中後期での HIV 再検査実施率に関する全国調査。第 37 回日本産婦人科感染症学会

- 学術集会. Web、2021.5
5. 山中彰一郎、杉浦 敦、石橋理子、市田宏司、太田 寛、岸本倫太郎、小林裕幸、佐久本薫、高野政志、竹田善紀、中西美紗緒、松田秀雄、箕浦茂樹、桃原祥人、藤田 綾、喜多恒和：さらなる HIV 母子感染予防対策構築に向けた検討 HIV 母子感染例の近年の特徴と予防対策の再考. 第 37 回日本産婦人科感染症学会学術集会. Web、2021.5
 6. 安藤 美喜子、桃原 祥人、嶋田 未知、石川 郁乃、瀬賀 雅康、倉富 由理、梅木 英紀：当院における COVID-19 PCR 陽性妊婦 13 例の検討. 第 43 回茨城医学会産婦人科分科会 第 190 回茨城産科婦人科学会例会. 2021.10
 7. 喜多恒和 (特別講演)：HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン第 2 版の改訂点について. 令和 3 年度奈良県医師会 HIV 医療講習会. 橿原(Web)、2021.11
 8. 喜多恒和 (日本エイズ学会ジョイント (合同) シンポジウム)：HIV 感染妊娠に関する診療ガイドラインと HIV 母子感染予防対策マニュアルの改訂と今後の課題. 日本性感染症学会第 34 回学術大会. Web、2021.11
 9. 山中彰一郎、杉浦 敦、市田宏司、竹田善紀、中西美紗緒、箕浦茂樹、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、藤田 綾、高橋尚子、吉野直人、山田里佳、田中瑞恵、大津 洋、外川正生、喜多恒和：HIV 感染妊婦に対する母子感染予防対策がもたらした効果. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京(Web)、2021.11
 10. 杉浦 敦、竹田善紀、市田宏司、山中彰一郎、箕浦茂樹、中西美紗緒、桃原祥人、高野政志、小林裕幸、高橋尚子、藤田 綾、山田里佳、吉野直人、大津 洋、田中瑞恵、外川正生、喜多恒和：HIV 感染妊娠における治療薬の推移に関する検討. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京(Web)、2021.11
 11. 田中瑞恵、外川正生、兼重昌夫、細川真一、前田尚子、寺田志津子、中河秀憲、七野浩之、吉野直人、杉浦 敦、喜多恒和：HIV 母子感染予防における児への AZT 投与方法の動向. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京(Web)、2021.11
 12. 吉野直人、伊藤由子、岩動ちず子、小山理恵、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、大津 洋、定月みゆき、喜多恒和：新型コロナウイルスパンデミックにおける HIV 母子感染予防のための診療体制への影響. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京(Web)、2021.11
 13. 佐野貴子、近藤真規子、土屋菜歩、井戸田一朗、堅多敦子、須藤弘二、星野慎二、清水茂徳、生島嗣、岩橋恒太、今井光信、加藤眞吾、市川誠一、白阪琢磨、櫻木淳一、今村顕史：COVID-19 流行下におけるウェブサイト「HIV 検査・相談マップ」のサイト利用状況と公的 HIV 検査縮小による影響. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京(Web)、2021.11
 14. 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、今村顕史、加藤眞吾。HIV 郵送検査に関する実態調査 (2020)。第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京(Web)、2021.11
 15. 土屋菜歩、佐野貴子、カエベタ亜矢、城所敏英、関なおみ、根岸潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤眞吾、大木幸子、生島嗣、今井光信、今村顕史：保健所・検査所における HIV 検査・相談体制と実施状況および課題に関するアンケート調査. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京(Web)、2021.11
 16. 土屋菜歩、佐野貴子、カエベタ亜矢、城所敏英、関なおみ、根岸潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤眞吾、大木幸子、生島嗣、今井光信、今村顕史：保健所・検査所における梅毒検査実施状況および陽性率に関するアンケート調査. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京(Web)、2021.11
 17. 近藤真規子、佐野貴子、須藤弘二、井戸田一朗、土屋菜歩、貞升健志、今井光信、加藤眞

吾、櫻木淳一、中澤よう子、今村顕史：新型コロナウイルス感染症流行禍における HIV 検査体制の実態. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会、第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京(Web)、2021.11

H. 知的財産権の出願・登録状況

- | | |
|----------|----|
| 1.特許取得 | なし |
| 2.実用新案登録 | なし |
| 3.その他 | なし |



図1 小冊子「性感染症のすべてが簡単にわかる本」の電子書籍化とリーフレットのクイズのウェブ化

表 1-1 ホームページ閲覧数（2021年4月～10月）

●ページビュー数														
	2021年													
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
イベント	・国立国際医療研究センター/HIV検査・相談マップHPリンク		・奈良県総合医療センターHPリンク		・日本産婦人科感染症学会HPリンク ・API-Netガイドラインページに小冊子、リーフレットを掲載		・「H30～R2年度総合研究報告書・R2年度統括分担研究報告書」掲載		・AIDS文化フォーラムin横浜（Web開催）参加 ・九州医療センターHPリンク ・「R2年度全国調査研究報告書」掲載		・名古屋医療センターエイズ治療開発センター-CARES HPリンク		・ホームページ改良（スマホ対応、電子書籍化、クイズWeb化） ・「小児科・産婦人科二次調査Q&A」ページ新設	
ページビュー数	1870		1976		2284		2226		1495		1370		1414	
ページビュー数（スパム除く）	1870		1976		2284		1426		1495		1370		1391	
1 HOME:HIV感染妊婦と母子感染予防	288	15.4%	272	13.8%	396	17.3%	350	24.5%	411	27.5%	443	32.3%	431	31.0%
2 研究目的	40	2.1%	14	0.7%	25	1.1%	29	2.0%	43	2.9%	23	1.7%	29	2.1%
3 研究組織	56	3.0%	16	0.8%	37	1.6%	52	3.6%	76	5.1%	16	1.2%	36	2.6%
4 研究報告書	57	3.0%	44	2.2%	47	2.1%	107	7.5%	88	5.9%	63	4.6%	47	3.4%
5 ガイドライン・マニュアル・リーフレット	319	17.1%	225	11.4%	289	12.7%	255	17.9%	287	19.2%	181	13.2%	204	14.7%
6 性感染症豆知識	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7 Q&A	989	52.9%	1336	67.6%	1395	61.1%	413	29.0%	416	27.8%	356	26.0%	363	26.1%
8 資料ダウンロード	34	1.8%	34	1.7%	29	1.3%	79	5.5%	59	3.9%	30	2.2%	50	3.6%
9 リンク集	21	1.1%	5	0.3%	13	0.6%	55	3.9%	34	2.3%	21	1.5%	13	0.9%
10 HIV感染妊婦の分娩受入施設	40	2.1%	24	1.2%	40	1.8%	37	2.6%	62	4.1%	25	1.8%	32	2.3%
11 小児科・産婦人科二次調査Q&A	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	0.6%
12 性と感染症の新ジョーシキ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	146	10.7%	137	9.8%
13 お問い合わせ	11	0.6%	3	0.2%	8	0.4%	7	0.5%	16	1.1%	21	1.5%	19	1.4%
14 サイトについて	11	0.6%	2	0.1%	5	0.2%	8	0.6%	3	0.2%	10	0.7%	9	0.6%
15 お知らせ一覧	4	0.2%	1	0.1%	0	0.0%	34	2.4%	0	0.0%	35	2.6%	13	0.9%

表 1-2 ホームページ閲覧数（2021年11月～2022年2月、令和元年度～3年度合計）

●ページビュー数														
	2022年													
	11月		12月		1月		2月		R3年度合計		R2年度合計		R1年度合計	
イベント	・API-Net HPリンク ・第35回日本エイズ学会学術集会 ・日本性感染症学会第34回学術大会		・Facebook（喜多恒介氏）で小冊子紹介		・「性感染症豆知識」を週1回Twitterにアップ開始		・「性感染症豆知識」ページ新設 まとめ(1月分) アップ							
ページビュー数	1519		1130		1006		1157		17447		22739		14339	
ページビュー数（スパム除く）	1518		1130		1006		1157		16623		22014		14289	
1 HOME:HIV感染妊婦と母子感染予防	403	26.5%	277	24.5%	227	22.6%	318	27.5%	3816	23.0%	1866	8.5%	1178	8.2%
2 研究目的	25	1.6%	9	0.8%	9	0.9%	9	0.8%	255	1.5%	155	0.7%	86	0.6%
3 研究組織	17	1.1%	21	1.9%	11	1.1%	8	0.7%	346	2.1%	211	1.0%	95	0.7%
4 研究報告書	111	7.3%	65	5.8%	27	2.7%	27	2.3%	683	4.1%	564	2.6%	182	1.3%
5 ガイドライン・マニュアル・リーフレット	268	17.7%	170	15.0%	172	17.1%	165	14.3%	2535	15.2%	2160	9.8%	2751	19.3%
6 性感染症豆知識	—	—	—	—	—	—	50	4.3%	50	0.3%	—	—	—	—
7 Q&A	435	28.7%	475	42.0%	450	44.7%	424	36.6%	7052	42.4%	16333	74.2%	9594	67.1%
8 資料ダウンロード	69	4.5%	28	2.5%	28	2.8%	22	1.9%	462	2.8%	373	1.7%	286	2.0%
9 リンク集	26	1.7%	18	1.6%	14	1.4%	10	0.9%	230	1.4%	97	0.4%	57	0.4%
10 HIV感染妊婦の分娩受入施設	32	2.1%	22	1.9%	26	2.6%	77	6.7%	417	2.5%	159	0.7%	—	—
11 小児科・産婦人科二次調査Q&A	66	4.3%	15	1.3%	11	1.1%	7	0.6%	107	0.6%	—	—	—	—
12 性と感染症の新ジョーシキ	41	2.7%	18	1.6%	14	1.4%	11	1.0%	367	2.2%	—	—	—	—
13 お問い合わせ	9	0.6%	8	0.7%	11	1.1%	15	1.3%	128	0.8%	45	0.2%	31	0.2%
14 サイトについて	11	0.7%	1	0.1%	1	0.1%	5	0.4%	66	0.4%	44	0.2%	19	0.1%
15 お知らせ一覧	5	0.3%	3	0.3%	5	0.5%	9	0.8%	109	0.7%	7	0.0%	10	0.1%

表2 ホームページ掲載PDFのページ別アクセス数（令和3年度、8月～1月のみ）

●PDFカウント数																
	2021年						2022年						合計			
	8月		9月		10月		11月		12月		1月				2月	
	・AIDS文化フォーラムin横浜（Web開催）参加 ・九州医療センター-HPリンク ・「R2年度全国調査研究報告書」掲載（お知らせ）		・名古屋医療センターエイズ治療開発センター-CARES HPリンク		・ホームページ改良（スマホ対応、電子書籍化、クイズWeb化） ・「小児科・産婦人科二次調査Q&A」ページ新設		・API-Net HPリンク ・第35回日本エイズ学会学術集会 ・日本性感染症学会第34回学術大会		・Facebook（喜多恒介氏）で小冊子紹介		・「性感染症豆知識」を週1回Twitterにアップ開始		・「性感染症豆知識」ページ新設			
	430		217		128		607		368		252		248		2250	
啓発資料	126	29.3%	87	40.1%	38	29.7%	232	38.2%	143	38.9%	116	46.0%	94	37.9%	836	37.2%
ガイドライン/マニュアル	158	36.7%	87	40.1%	61	47.7%	166	27.3%	118	32.1%	97	38.5%	116	46.8%	803	35.7%
学会発表資料	19	4.4%	8	3.7%	14	10.9%	32	5.3%	9	2.4%	4	1.6%	1	0.4%	87	3.9%
研究に関する資料	38	8.8%	9	4.1%	5	3.9%	32	5.3%	26	7.1%	7	2.8%	20	8.1%	137	6.1%
*2021年8月よりPDFファイルダウンロード数のカウントシステム導入																

表 3-1 ホームページ掲載 PDF のアクセス数の詳細（令和3年度、8月～1月のみ）

●PDFアクセス数		2021年					2022年	
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	
イベント		・AIDS文化フォーラムin横浜（Web開催）参加 ・九州医療センターHPリンク ・「R2年度全国調査研究報告書」掲載（お知らせ） ・PDFアクセス数カウント開始	・名古屋医療センターエイズ治療開発センター-CARES HPリンク	・ホームページ改良（スマホ対応、電子書籍化、クイズWeb化） ・「小児科・産婦人科二次調査Q&A」ページ新設	・API-Net HPリンク ・第35回日本エイズ学会学術集会 ・日本性感染症学会第34回学術大会	・Facebook（喜多恒介氏）で小冊子紹介	・「性感染症豆知識」を週1回Twitterにアップ開始	
PDFアクセス数		430	217	128	607	368	252	
1	8/6第28回AIDS文化フォーラムin横浜アンケート							
2	電子書籍「HIVや梅毒をはじめとする性感染症のすべてが簡単にわかる本」バナー			7	28	26		18
3	電子書籍「HIVや梅毒をはじめとする性感染症のすべてが簡単にわかる本」バナーSP表示							
4	女性向けページバナー			3	26	10		6
5	女性向けページバナーSP表示							
6	男性向けページバナー			2	11	4		4
7	男性向けページバナーSP表示							
8	性と感染症の基礎知識ページバナー				9	8		2
9	性と感染症の基礎知識ページバナーSP表示							
10	研究に関するお知らせ（吉野直人）	3		2		1		
11	研究に関するお知らせ（杉浦誠）	5	1	3	5	3		1
12	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」平成30年度～令和2年度総合研究報告書【PDF】	24	7	4	42	25		6
13	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」平成30年度～令和2年度総合研究報告書【PDF】	11	3	1	22	9		4
14	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」令和2年度総合・分組研究報告書【PDF】	10	3	1	24	6		
15	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」令和元年度総合・分組研究報告書【PDF】	3	2		1	3		
16	HIV母子感染全国調査研究報告書（令和2年度）	10	7	2	43	17		3
17	〈補足資料〉令和2年度	4		1	13	11		4
18	HIV母子感染全国調査研究報告書（令和元年度）	4	4	1		1		1
19	〈補足資料〉令和元年度	2						5
20	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」平成30年度総合・分組研究報告書	2						
21	HIV母子感染全国調査研究報告書平成30年度	2						2
22	〈補足資料〉平成30年度	1						1
23	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染妊娠に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立」平成27年度～平成29年度総合研究報告書	1						
24	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染妊娠に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立」平成28年度総合・分組研究報告書	1						
25	HIV母子感染全国調査研究報告書平成29年度	1						1
26	〈補足資料〉平成29年度	1						
27	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染妊娠に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立」平成28年度総合・分組研究報告書	1						
28	HIV母子感染全国調査研究報告書平成28年度	1						
29	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染妊娠に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立」平成27年度総合・分組研究報告書	2						
30	HIV母子感染全国調査研究報告書平成27年度	1						1
31	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業（エイズ対策実用化研究事業）「HIV母子感染の疫学調査と予防対策および女性・小児感染者支援に関する研究」平成24年度～平成28年度総合研究報告書	7						

表 3-2 ホームページ掲載 PDF のアクセス数の詳細 (続き) (令和 3 年度、8 月~1 月のみ)

●PDFアクセス数						
	2021年					2022年
	8月	9月	10月	11月	12月	1月
イベント	・AIDS文化フォーラムin横浜 (Web開催) 参加 ・九州医療センターHPリンク ・「R2 年度全国調査研究報告書」掲載 (お知らせ) ・PDFアクセス数カウント開始	・名古屋医療センターエイズ治療開発センターCARES HPリンク	・ホームページ改良 (スマホ対応、電子書籍化、クイズWeb化) ・「小児科・産婦人科二次調査Q&A」ページ新設	・API-Net HPリンク ・第35回日本エイズ学会学術集会 ・日本性感染症学会第34回学術大会	・Facebook (喜多恒介氏) で小冊子紹介	・「性感染症豆知識」を週1回Twitterにアップ開始
PDFアクセス数	430	217	128	607	368	252
32 HIV感染経路に関する診療ガイドライン第2版【PDF】	76	47	37	93	61	49
33 HIV感染経路に関する診療ガイドライン初版【PDF】	6	1	5	5	3	4
34 HIV母子感染予防策マニュアル第8版【PDF】	60	36	17	62	44	42
35 HIV母子感染予防策マニュアル第7版【PDF】	9		1		1	1
36 妊婦HIV一次検査実施マニュアル【PDF】	7	3	1	6	9	1
37 HIVや梅毒をはじめとする性感染症のすべてが原因にわかる本【PDF】	36	12	5	36	10	8
38 HIVでわかる性と感染症の新ジョーシキ【PDF】	17	11		18	9	2
39 この子の明目の鑑別のために (事例編)【PDF】	2	2	1	7	1	1
40 FORNOMENあなたへのメッセージ【PDF】	2	2		4	5	
41 この子の明目の鑑別のために子どものHIV感染について告知と支援を考える【PDF】	1		1	1	2	1
42 保育園等で働く人へ標準予防策 (スタンダード・プリコーション) のすすめ【PDF】	1	3	1	1	4	1
43 あなた自身の健康と赤ちゃんの健康を守るために【PDF】	10		2	2	1	1
44 妊婦HIVスクリーニング検査 (一次検査) で結果が陽性だった方へ【PDF】	57	57	16	89	63	72
45 女性のためのQ&A第4版貴方らしく明日を生きるために【PDF】						
46 HIV母子感染予防啓発に関する全国自治体アンケート調査と今後の啓発活動の考察【PDF】	3		8	9	1	
47 本邦におけるHIV感染経路の将来予測 (抜粋)【PDF】			1	6	1	
48 HIV感染の発症時期が経産後期・分娩後であった事例に関する検討【PDF】	3		1	5		
49 HIV母子感染予防のQ&A~「HIV母子感染予防策マニュアル (第8版)」および「HIV感染経路に関する診療ガイドライン (初版)」より~【PDF】	3	4	3	6	2	1
50 HIV感染経路と早産に関する検討 (抜粋)【PDF】	1	1				
51 HIV感染経路の経路分類入りに関してわが国が抱える診療体制の課題 (ポスター)【PDF】						
52 HIV母子感染の国内分娩例に関する検討 (抜粋)【PDF】		1	1	1		1
53 妊婦初期HIVスクリーニング検査率向上から生じた母子感染に関する検討【PDF】	1	1		3	1	
54 HIV感染経路に関する診療ガイドライン初版とHIV母子感染マニュアル第7版の比較【PDF】	1			2	1	
55 妊婦HIVスクリーニングにおける未受診妊婦の問題~妊婦HIVスクリーニング検査率に関する全国調査 (ポスター)【PDF】						
56 妊産中・分娩後にHIV感染が判明した272例の臨床的疫学的検討 (抜粋)【PDF】	4					2
57 第28回日本エイズ学会学術集会 (大阪) 発表資料【PDF】	3	1			1	
58 S7-2) わが国におけるHIV感染経路の動向と近年の特徴 (シンポジウム)【PDF】					2	
59 妊婦HIV検査 (一次検査) で結果が陽性だった方へ【PDF】						
60 女性のためのQ&A貴方らしく明日を生きるために【PDF】	26	8				
61 HIV母子感染二次調査 回答方法 (手順書)				1	5	4
62 ①手順書 (小児科二次調査)				5	4	1
63 ②001874_20210910調査結果通知書 (小児科二次調査)				2	6	
64 ③20210719情報公開文書 (他施設) ver0.6				4	1	
65 ④他の研究機関への試料・情報の提供に関する同意書 (小児科二次調査) ver1.0	2			2	1	
66 ⑤他の研究機関への試料・情報の提供に関する同意書 (小児科二次調査) ver1.0				3	1	
67 ⑥症例登録用紙_ver2.0				3	1	
68 ⑦症例用紙別紙選択項目一覧_ver1.0	2			2	1	1
69 ⑧二次調査eCRF (調査票見本)				5	2	
70 ⑨Twitter 2022年1月分						

HIV(ヒト免疫不全ウイルス)スクリーニング検査に関するアンケート調査のお願い (2021年7月版)

この度、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」班(研究代表者:喜多恒和、奈良県総合医療センター産婦人科)が行っている研究の一部として、HIV母子感染についての知識の確認およびHIVスクリーニング検査の方法の妥当性について検討することを目的として、妊婦さんを対象としたアンケート調査を行うことになりました。この調査は当センターの倫理委員会で、その科学性・倫理性が審議され承認されたものですが、調査回答を強制するものではありませんし、回答いただけない場合でも何ら不利益をこうむることはありません。以上をご理解いただき、そのうえでどうかご協力いただけますようお願いいたします。

1. 調査の方法

1)対象者:妊娠初期妊婦(妊娠初期検査を行う方)

2)調査の方法:アンケート方式

3)個人情報の保持:このアンケートでは個人を特定できる情報を集積しておらず、個人情報が漏洩することはなく、また集積データから個人を特定することも不可能です。

4)調査期間:2021年4月~2024年3月

5)集積情報の解析と報告:毎年度の研究報告書に結果を掲載し、その一部は研究班ホームページで一般公開されます。

2. 調査および情報管理の責任

奈良県総合医療センター産婦人科 喜多恒和

〒630-8581 奈良県奈良市七条西町 二丁目 897-5 Tel:0742-46-6001 Fax:0742-46-6011

3. 調査に参加することにより予想される利益と起こるかもしれない不利益

1)予想される利益

アンケート調査をおこなうことでHIV感染妊娠に関するわが国の社会的現状を把握でき、一般国民の知識向上につなげることができます。

2)起こるかもしれない不利益

本調査に参加することで、身体的・経済的な不利益はありません。

4. 患者さんの費用負担について

本調査は、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業によって行われます。アンケート調査に参加することで診療に伴う費用負担が増えることはなく、報酬もありません。

5. 担当医師の連絡先

この調査について疑問や質問がありましたら、アンケート実施施設の担当医師に遠慮なくお問い合わせ下さい。

HIV スクリーニング検査にかかわるアンケート

記入日： 月 日

以下の質問にお答えいただき、該当するものに○をお書きください。

① このアンケートにお答えいただく方の年齢をおしえてください

- | | |
|------------|------------|
| 1. 20歳未満 | 4. 30歳～34歳 |
| 2. 20歳～24歳 | 5. 35歳～39歳 |
| 3. 25歳～29歳 | 6. 40歳以上 |

② このアンケートにお答えいただく方の出産回数をおしえてください

1. 0回
2. 1回
3. 2回以上

③ リーフレット『クイズでわかる性と感染症の新ジョーシキ』や小冊子『HIV や梅毒をはじめとする性感染症のすべてが簡単にわかる本』をお読みいただきましたか

1. もらっていない
2. 読んだ
 - ↳ どれくらい内容を理解できましたか
 - ・80%以上
 - ・50%以上
 - ・30%以上
 - ・ほとんど理解できなかった
3. もらったが読んでいない



④ HIV が母子感染(妊娠中に母体から赤ちゃんに感染)するということを知っていますか

1. 以前から知っていた
2. リーフレットや小冊子を読んで知った
3. 知らなかった

⑤ HIV のスクリーニング検査を妊婦健診で行うことを知っていますか

1. 以前から知っていた
2. リーフレットや小冊子を読んで知った
3. 知らなかった

⑥ HIV スクリーニング検査で陽性の結果でも、95%以上は偽陽性(詳しく調べると実際は感染していない:1万人のうち31人がスクリーニング検査で陽性となりますが、そのうち30人は確認検査の結果は陰性)であることを知っていますか

1. 以前から知っていた
2. リーフレットや小冊子を読んで知った
3. 知らなかった

① HIV スクリーニング検査で陽性と出た場合、確認検査の結果が出るまでに 1 週間ほどかかります。その期間についてどのように想像しますか。

1. 非常に動揺する
2. 動揺はするが、偽陽性率が高いことを知っていれば検査の結果が出るまで落ち着いて待てる
3. あまり気にならない

② このアンケートで、HIV 感染についての知識は増えましたか

1. 増えた
2. 増えなかった
3. 以前にもこのアンケートを受けたことがある

性感染症についてお答えください

⑨-1 性感染症にはエイズ（HIV 感染）、性器ヘルペスなどたくさんありますが、ここ数年梅毒患者は急増していることを知っていますか

1. 以前から知っていた
2. リーフレットや小冊子を読んで知った
3. 知らなかった

⑨-2 妊婦さんが梅毒にかかっていると赤ちゃんに重大な影響を及ぼしますが、妊娠中に治療すれば治すことができることを知っていますか

1. 以前から知っていた
2. リーフレットや小冊子を読んで知った
3. 知らなかった

⑩ 性感染症以外にも母子感染して赤ちゃんに重大な影響を及ぼす病気がたくさんあります。中でも風疹は赤ちゃんに難聴や、心臓の病気などが現れることがありますが、妊娠前のワクチン接種で防ぐことができることを知っていますか

1. 以前から知っていた
2. リーフレットや小冊子を読んで知った
3. 知らなかった

ご協力ありがとうございました

表 4-1 妊婦アンケート調査（全国定点施設）

令和3年度定点4施設									
施設名	有床診療所		市中病院		公的病院		公的病院		
	松田母子クリニック		成増産院		奈良県総合医療センター		都立大塚病院		
調査期間	R 3. 7 ~		R 3. 7 ~		R 3. 7 ~		R 3. 7 ~		
リーフレット・小冊子	【読んだ】	【読んでいない】	【読んだ】	【読んでいない】	【読んだ】	【読んでいない】	【読んだ】	【読んでいない】	
回答数	82	17	76	19	21	1	10	5	
①年齢									
1: 20歳未満	1 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2: 20歳~24歳	3 (3.7%)	0 (0.0%)	3 (3.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
3: 25歳~29歳	27 (32.9%)	5 (29.4%)	21 (27.6%)	3 (15.8%)	4 (19.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	
4: 30歳~34歳	26 (31.7%)	7 (41.2%)	28 (36.8%)	13 (68.4%)	7 (33.3%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	1 (20.0%)	
5: 35歳~39歳	20 (24.4%)	5 (29.4%)	21 (27.6%)	3 (15.8%)	6 (28.6%)	0 (0.0%)	5 (50.0%)	3 (60.0%)	
6: 40歳以上	5 (6.1%)	0 (0.0%)	3 (3.9%)	0 (0.0%)	4 (19.0%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	1 (20.0%)	
②出産回数									
1: 0回	41 (50.0%)	8 (47.1%)	21 (27.6%)	6 (31.6%)	8 (38.1%)	0 (0.0%)	5 (50.0%)	1 (20.0%)	
2: 1回	28 (34.1%)	7 (41.2%)	42 (55.3%)	9 (47.4%)	9 (42.9%)	1 (100.0%)	4 (40.0%)	3 (60.0%)	
3: 2回	13 (15.9%)	2 (11.8%)	13 (17.1%)	4 (21.1%)	4 (19.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	1 (20.0%)	
③リーフレットをお読みいただきましたか									
読んだ/読んでいない	82 (82.8%)	17 (17.2%)	76 (80.0%)	19 (20.0%)	21 (95.5%)	1 (4.5%)	10 (66.7%)	5 (33.3%)	
③で「2: 読んだ」を選択した人の理解度									
理解度 80%以上	51 (64.6%)		42 (66.7%)		16 (76.2%)		6 (66.7%)		
理解度 50%以上	25 (31.6%)		21 (33.3%)		5 (23.8%)		3 (33.3%)		
理解度 30%以上	3 (3.8%)		0 (0.0%)		0 (0.0%)		0 (0.0%)		
ほとんど理解できず	0 (0.0%)		0 (0.0%)		0 (0.0%)		0 (0.0%)		
④HIVが母子感染することを知っていましたか。									
1: 以前から知っていた	55 (67.1%)	14 (82.4%)	53 (69.7%)	16 (84.2%)	17 (81.0%)	1 (100.0%)	8 (80.0%)	3 (60.0%)	
2: 読んで知った	24 (29.3%)	0 (0.0%)	21 (27.6%)	1 (5.3%)	3 (14.3%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	
3: 知らなかった	3 (3.7%)	3 (17.6%)	2 (2.6%)	2 (10.5%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	
⑤HIVスクリーニング検査を妊婦健診で行うことを知っていましたか。									
1: 以前から知っていた	34 (41.5%)	10 (58.8%)	43 (56.6%)	11 (57.9%)	10 (47.6%)	0 (0.0%)	4 (40.0%)	3 (60.0%)	
2: 読んで知った	40 (48.8%)	2 (11.8%)	21 (27.6%)	0 (0.0%)	4 (19.0%)	0 (0.0%)	6 (60.0%)	0 (0.0%)	
3: 知らなかった	8 (9.8%)	5 (29.4%)	12 (15.8%)	8 (42.1%)	7 (33.3%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	
⑥HIVスクリーニング検査で陽性の結果でも、95%以上は偽陽性であることを知っていましたか。									
1: 以前から知っていた	7 (8.5%)	1 (5.9%)	9 (11.8%)	1 (5.3%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	
2: 読んで知った	45 (54.9%)	1 (5.9%)	43 (56.6%)	0 (0.0%)	12 (57.1%)	0 (0.0%)	6 (60.0%)	0 (0.0%)	
3: 知らなかった	30 (36.6%)	15 (88.2%)	24 (31.6%)	18 (94.7%)	8 (38.1%)	1 (100.0%)	4 (40.0%)	3 (60.0%)	
⑦HIVスクリーニング検査で陽性と出た場合、確認検査の結果が出るまでに1週間かかるが、その期間についてどのように想像しますか。									
1: 非常に動揺する	31 (37.8%)	11 (64.7%)	26 (34.2%)	6 (31.6%)	14 (66.7%)	1 (100.0%)	1 (10.0%)	2 (40.0%)	
2: 動揺するが、偽陽性率が高いことを知っていれば検査の結果が出るまで落ち着いて待てる	44 (53.7%)	6 (35.3%)	39 (51.3%)	8 (42.1%)	7 (33.3%)	0 (0.0%)	9 (90.0%)	1 (20.0%)	
3: あまり気にならない	7 (8.5%)	0 (0.0%)	11 (14.5%)	5 (26.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	
⑧このアンケートでHIV感染についての知識は増えましたか。									
1: 増えた	77 (93.9%)	15 (88.2%)	70 (92.1%)	17 (89.5%)	21 (100.0%)	1 (100.0%)	10 (100.0%)	5 (100.0%)	
2: 増えなかった	2 (2.4%)	2 (11.8%)	6 (7.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
3: 以前にこのアンケートを受けたことがある	3 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (10.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
⑨-1 性感染症にはエイズ（HIV感染）、性器ヘルペスなどたくさんありますが、ここ数年梅毒患者は急増していることを知っていますか。									
1: 以前から知っていた	27 (33.3%)	6 (35.3%)	23 (30.3%)	8 (42.1%)	6 (28.6%)	0 (0.0%)	3 (30.0%)	3 (60.0%)	
2: 読んで知った	38 (46.9%)	1 (5.9%)	33 (43.4%)	0 (0.0%)	11 (52.4%)	0 (0.0%)	3 (30.0%)	0 (0.0%)	
3: 知らなかった	16 (19.8%)	10 (58.8%)	20 (26.3%)	11 (57.9%)	4 (19.0%)	1 (100.0%)	4 (40.0%)	2 (40.0%)	
⑨-2 妊婦さんが梅毒にかかっていると赤ちゃんに重大な影響を及ぼしますが、妊娠中に治療すれば治すことができることを知っていますか。									
1: 以前から知っていた	14 (17.1%)	3 (17.6%)	14 (18.4%)	6 (31.6%)	6 (28.6%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	1 (20.0%)	
2: 読んで知った	48 (58.5%)	2 (11.8%)	47 (61.8%)	0 (0.0%)	11 (52.4%)	0 (0.0%)	7 (70.0%)	0 (0.0%)	
3: 知らなかった	20 (24.4%)	12 (70.6%)	15 (19.7%)	13 (68.4%)	4 (19.0%)	1 (100.0%)	2 (20.0%)	4 (80.0%)	
⑩風疹の母子感染は妊娠前のワクチン接種で防ぐことができることを知っていますか。									
1: 以前から知っていた	53 (64.6%)	13 (76.5%)	53 (69.7%)	13 (68.4%)	19 (90.5%)	1 (100.0%)	1 (10.0%)	5 (100.0%)	
2: 読んで知った	23 (28.0%)	2 (11.8%)	19 (25.0%)	0 (0.0%)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	7 (70.0%)	0 (0.0%)	
3: 知らなかった	6 (7.3%)	2 (11.8%)	4 (5.3%)	6 (31.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	

表 4-2 妊婦アンケート調査（奈良市内診療所）

令和3年度奈良市内4施設										
施設名	有床診療所 H産婦人科		有床診療所 T産婦人科		有床診療所 N産婦人科		有床診療所 O産婦人科			
	R 3. 7 ~		R 3. 7 ~		R 3. 7 ~		R 3. 7 ~			
調査期間	【読んだ】		【読んでいない】		【読んだ】		【読んでいない】		【読んだ】	
リーフレット・小冊子	【読んだ】		【読んでいない】		【読んだ】		【読んでいない】		【読んだ】	
回答数	65	23	68	8	34	23	26	5		
①年齢										
1: 20歳未満	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2: 20歳～24歳	2 (3.1%)	1 (4.3%)	3 (4.4%)	0 (0.0%)	3 (8.8%)	3 (13.0%)	3 (11.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3: 25歳～29歳	19 (29.2%)	6 (26.1%)	18 (26.5%)	4 (50.0%)	11 (32.4%)	10 (43.5%)	12 (46.2%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)
4: 30歳～34歳	27 (41.5%)	11 (47.8%)	27 (39.7%)	2 (25.0%)	14 (41.2%)	8 (34.8%)	6 (23.1%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)
5: 35歳～39歳	16 (24.6%)	3 (13.0%)	16 (23.5%)	1 (12.5%)	3 (8.8%)	1 (4.3%)	5 (19.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
6: 40歳以上	1 (1.5%)	2 (8.7%)	4 (5.9%)	1 (12.5%)	2 (5.9%)	1 (4.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
②出産回数										
1: 0回	32 (49.2%)	12 (52.2%)	29 (42.6%)	3 (37.5%)	21 (61.8%)	12 (52.2%)	12 (46.2%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)
2: 1回	23 (35.4%)	10 (43.5%)	27 (39.7%)	4 (50.0%)	10 (29.4%)	6 (26.1%)	12 (46.2%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)
3: 2回	10 (15.4%)	1 (4.3%)	12 (17.6%)	1 (12.5%)	3 (8.8%)	5 (21.7%)	2 (7.7%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)
③リーフレットをお読みいただきましたか										
読んだ/読んでいない	65 (73.9%)	23 (26.1%)	68 (89.5%)	8 (10.5%)	34 (59.6%)	23 (40.4%)	26 (83.9%)	5 (16.1%)		
④「2: 読んだ」を選択した人の理解度										
理解度 80%以上	35 (53.8%)		57 (83.8%)		19 (59.4%)		17 (68.0%)			
理解度 50%以上	28 (43.1%)		10 (14.7%)		9 (28.1%)		8 (32.0%)			
理解度 30%以上	2 (3.1%)		1 (1.5%)		3 (9.4%)		0 (0.0%)			
ほとんど理解できず	0 (0.0%)		0 (0.0%)		1 (3.1%)		0 (0.0%)			
⑤HIVが母子感染するということを知っていましたか。										
1: 以前から知っていた	45 (69.2%)	15 (65.2%)	48 (70.6%)	6 (75.0%)	21 (61.8%)	12 (54.5%)	19 (73.1%)	4 (80.0%)	4 (80.0%)	4 (80.0%)
2: 読んで知った	18 (27.7%)	2 (8.7%)	20 (29.4%)	0 (0.0%)	9 (26.5%)	2 (9.1%)	6 (23.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3: 知らなかった	2 (3.1%)	6 (26.1%)	0 (0.0%)	2 (25.0%)	4 (11.8%)	8 (36.4%)	1 (3.8%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)
⑥HIVスクリーニング検査を妊婦健診で行うことを知っていましたか。										
1: 以前から知っていた	29 (44.6%)	11 (47.8%)	26 (38.2%)	4 (50.0%)	12 (35.3%)	11 (47.8%)	14 (53.8%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)
2: 読んで知った	20 (30.8%)	1 (4.3%)	34 (50.0%)	0 (0.0%)	12 (35.3%)	2 (8.7%)	11 (42.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3: 知らなかった	16 (24.6%)	11 (47.8%)	8 (11.8%)	4 (50.0%)	10 (29.4%)	10 (43.5%)	1 (3.8%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)
⑦HIVスクリーニング検査で陽性の結果でも、95%以上は偽陽性であることを知っていましたか。										
1: 以前から知っていた	1 (1.6%)	2 (8.7%)	4 (6.1%)	0 (0.0%)	2 (6.1%)	4 (19.0%)	2 (7.7%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)
2: 読んで知った	36 (56.3%)	1 (4.3%)	50 (75.8%)	0 (0.0%)	11 (33.3%)	0 (0.0%)	16 (61.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3: 知らなかった	27 (42.2%)	20 (87.0%)	12 (18.2%)	8 (100.0%)	20 (60.6%)	17 (81.0%)	8 (30.8%)	4 (80.0%)	4 (80.0%)	4 (80.0%)
⑧HIVスクリーニング検査で陽性と出た場合、確認検査の結果が出るまでに1週間かかるが、その期間についてどのように想像しますか。										
1: 非常に動揺する	29 (44.6%)	17 (73.9%)	26 (38.2%)	3 (37.5%)	12 (35.3%)	11 (47.8%)	9 (34.6%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)
2: 動揺するが、偽陽性率が高いことを知っていれば検査の結果が出るまで落ち着いて待てる	34 (52.3%)	4 (17.4%)	37 (54.4%)	5 (62.5%)	20 (58.8%)	12 (52.2%)	14 (53.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3: あまり気にならない	2 (3.1%)	2 (8.7%)	5 (7.4%)	0 (0.0%)	2 (5.9%)	0 (0.0%)	3 (11.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
⑨このアンケートでHIV感染についての知識は増えましたか。										
1: 増えた	65 (100.0%)	22 (95.7%)	66 (97.1%)	8 (100.0%)	34 (100.0%)	19 (82.6%)	26 (100.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)
2: 増えなかった	0 (0.0%)	1 (4.3%)	2 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)
3: 以前にこのアンケートを受けたことがある	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
⑩-1 性感染症にはエイズ（HIV感染）、性器ヘルペスなどたくさんありますが、ここ数年梅毒患者は急増していることを知っていますか。										
1: 以前から知っていた	14 (21.5%)	7 (30.4%)	25 (36.8%)	1 (12.5%)	14 (41.2%)	8 (36.4%)	8 (30.8%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)
2: 読んで知った	33 (50.8%)	1 (4.3%)	29 (42.6%)	1 (12.5%)	7 (20.6%)	1 (4.5%)	15 (57.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3: 知らなかった	18 (27.7%)	15 (65.2%)	14 (20.6%)	6 (75.0%)	13 (38.2%)	13 (59.1%)	3 (11.5%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)
⑩-2 妊婦さんが梅毒にかかっていると赤ちゃんに重大な影響を及ぼしますが、妊娠中に治療すれば治すことができることを知っていますか。										
1: 以前から知っていた	7 (10.8%)	4 (17.4%)	12 (17.6%)	2 (25.0%)	7 (20.6%)	5 (21.7%)	4 (16.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)
2: 読んで知った	36 (55.4%)	1 (4.3%)	42 (61.8%)	0 (0.0%)	12 (35.3%)	1 (4.5%)	18 (72.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3: 知らなかった	22 (33.8%)	18 (78.3%)	14 (20.6%)	6 (75.0%)	15 (44.1%)	17 (73.9%)	3 (12.0%)	4 (80.0%)	4 (80.0%)	4 (80.0%)
⑪風疹の母子感染は妊娠前のワクチン接種で防ぐことができることを知っていますか。										
1: 以前から知っていた	40 (61.5%)	17 (73.9%)	52 (76.5%)	6 (75.0%)	18 (52.9%)	15 (65.2%)	14 (53.8%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)
2: 読んで知った	17 (26.2%)	0 (0.0%)	12 (17.6%)	0 (0.0%)	11 (32.4%)	2 (8.7%)	10 (38.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3: 知らなかった	8 (12.3%)	6 (26.1%)	4 (5.9%)	2 (25.0%)	5 (14.7%)	6 (26.1%)	2 (7.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

表 4-3 妊婦アンケート調査（全国定点施設・奈良市内診療所合計）

令和3年度合計							
施設名	定点病院		奈良市有床診療所		合計		
調査期間	R3.7～		R3.7～		R3.7～		
リーフレット・小冊子	【読んだ】	【読んでいない】	【読んだ】	【読んでいない】	【読んだ】	【読んでいない】	
回答数	189	42	193	59	382	101	
①年齢							
1：20歳未満	1 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (0.5%)	0 (0.0%)	
2：20歳～24歳	6 (3.2%)	1 (2.4%)	11 (5.7%)	4 (6.8%)	17 (4.5%)	5 (5.0%)	
3：25歳～29歳	53 (28.0%)	8 (19.0%)	60 (31.1%)	22 (37.3%)	113 (29.6%)	30 (29.7%)	
4：30歳～34歳	63 (33.3%)	21 (50.0%)	74 (38.3%)	24 (40.7%)	137 (35.9%)	45 (44.6%)	
5：35歳～39歳	52 (27.5%)	11 (26.2%)	40 (20.7%)	5 (8.5%)	92 (24.1%)	16 (15.8%)	
6：40歳以上	14 (7.4%)	1 (2.4%)	7 (3.6%)	4 (6.8%)	21 (5.5%)	5 (5.0%)	
②出産回数							
1：0回	75 (39.7%)	15 (35.7%)	94 (48.7%)	28 (47.5%)	169 (44.2%)	43 (42.6%)	
2：1回	83 (43.9%)	20 (47.6%)	72 (37.3%)	22 (37.3%)	155 (40.6%)	42 (41.6%)	
3：2回	31 (16.4%)	7 (16.7%)	27 (14.0%)	9 (15.3%)	58 (15.2%)	16 (15.8%)	
③リーフレットをお読みいただきましたか							
読んだ/読んでいない	189 (81.8%)	42 (18.2%)	193 (76.6%)	59 (23.4%)	382 (79.1%)	101 (20.9%)	
③で「2：読んだ」を選択した人の理解度							
理解度 80%以上	115 (66.9%)		128 (67.4%)		243 (67.1%)		
理解度 50%以上	54 (31.4%)		55 (28.9%)		109 (30.1%)		
理解度 30%以上	3 (1.7%)		6 (3.2%)		9 (2.5%)		
ほとんど理解できず	0 (0.0%)		1 (0.5%)		1 (0.3%)		
④HIVが母子感染するということを知っていましたか。							
1：以前から知っていた	133 (70.4%)	34 (81.0%)	133 (68.9%)	37 (63.8%)	266 (69.6%)	71 (71.0%)	
2：読んで知った	50 (26.5%)	1 (2.4%)	53 (27.5%)	4 (6.9%)	103 (27.0%)	5 (5.0%)	
3：知らなかった	6 (3.2%)	7 (16.7%)	7 (3.6%)	17 (29.3%)	13 (3.4%)	24 (24.0%)	
⑤HIVスクリーニング検査を妊婦健診で行うことを知っていましたか。							
1：以前から知っていた	91 (48.1%)	24 (57.1%)	81 (42.0%)	29 (49.2%)	172 (45.0%)	53 (52.5%)	
2：読んで知った	71 (37.6%)	2 (4.8%)	77 (39.9%)	3 (5.1%)	148 (38.7%)	5 (5.0%)	
3：知らなかった	27 (14.3%)	16 (38.1%)	35 (18.1%)	27 (45.8%)	62 (16.2%)	43 (42.6%)	
⑥HIVスクリーニング検査で陽性の結果でも、95%以上は偽陽性であることを知っていましたか。							
1：以前から知っていた	17 (9.0%)	4 (9.5%)	9 (4.8%)	7 (12.3%)	26 (6.9%)	11 (11.1%)	
2：読んで知った	106 (56.1%)	1 (2.4%)	113 (59.8%)	1 (1.8%)	219 (57.9%)	2 (2.0%)	
3：知らなかった	66 (34.9%)	37 (88.1%)	67 (35.4%)	49 (86.0%)	133 (35.2%)	86 (86.9%)	
⑦HIVスクリーニング検査で陽性と出た場合、確認検査の結果が出るまでに1週間かかるが、その期間についてどのように想像しますか。							
1：非常に動揺する	72 (38.1%)	20 (47.6%)	76 (39.4%)	36 (61.0%)	148 (38.7%)	56 (55.4%)	
2：動揺するが、偽陽性率が高いことを知れば検査の結果が出るまで落ち着いて待てる	99 (52.4%)	15 (35.7%)	105 (54.4%)	21 (35.6%)	204 (53.4%)	36 (35.6%)	
3：あまり気にならない	18 (9.5%)	7 (16.7%)	12 (6.2%)	2 (3.4%)	30 (7.9%)	9 (8.9%)	
⑧このアンケートでHIV感染についての知識は増えましたか。							
1：増えた	178 (94.2%)	38 (90.5%)	191 (99.0%)	52 (88.1%)	369 (96.6%)	90 (89.1%)	
2：増えなかった	8 (4.2%)	2 (4.8%)	2 (1.0%)	5 (8.5%)	10 (2.6%)	7 (6.9%)	
3：以前にこのアンケートを受けたことがある	3 (1.6%)	2 (4.8%)	0 (0.0%)	2 (3.4%)	3 (0.8%)	4 (4.0%)	
⑨-1 性感染症にはエイズ（HIV感染）、性器ヘルペスなどたくさんありますが、ここ数年梅毒患者は急増していることを知っていますか。							
1：以前から知っていた	59 (31.4%)	17 (40.5%)	61 (31.6%)	18 (31.0%)	120 (31.5%)	35 (35.0%)	
2：読んで知った	85 (45.2%)	1 (2.4%)	84 (43.5%)	3 (5.2%)	169 (44.4%)	4 (4.0%)	
3：知らなかった	44 (23.4%)	24 (57.1%)	48 (24.9%)	37 (63.8%)	92 (24.1%)	61 (61.0%)	
⑨-2 妊婦さんが梅毒にかかっていると赤ちゃんに重大な影響を及ぼしますが、妊娠中に治療すれば治すことができることを知っていますか。							
1：以前から知っていた	35 (18.5%)	10 (23.8%)	30 (15.6%)	12 (20.3%)	65 (17.1%)	22 (21.8%)	
2：読んで知った	113 (59.8%)	2 (4.8%)	108 (56.3%)	2 (3.4%)	221 (58.0%)	4 (4.0%)	
3：知らなかった	41 (21.7%)	30 (71.4%)	54 (28.1%)	45 (76.3%)	95 (24.9%)	75 (74.3%)	
⑩風疹の母子感染は妊娠前のワクチン接種で防ぐことができることを知っていますか。							
1：以前から知っていた	126 (66.7%)	32 (76.2%)	124 (64.2%)	43 (72.9%)	250 (65.4%)	75 (74.3%)	
2：読んで知った	51 (27.0%)	2 (4.8%)	50 (25.9%)	2 (3.4%)	101 (26.4%)	4 (4.0%)	
3：知らなかった	12 (6.3%)	8 (19.0%)	19 (9.8%)	14 (23.7%)	31 (8.1%)	22 (21.8%)	



<おもて>

<うら>

図2 研究班ホームページと小冊子・リーフレットの名刺サイズ宣伝カード

表5 リーフレット・小冊子送付依頼数

依頼日	発送日	依頼元	リーフレット	小冊子	使用用途
6月4日	6月4日	東京都福祉保健局	200	100	エイズ検査週間で受験者に配布
7月16日	7月29日	高知県健康政策部	600	600	県内保健所、医療機関、図書館及び思春期相談センターで県民へ配布
7月19日	7月29日	岡山県保健福祉部	500	500	岡山県内の各保健所に配布し、保健所のエイズ出前講座等の事業で地域や学校に性感染症の予防等に関する知識を啓発する
7月19日	8月4日	神奈川県健康医療局		100	県の「エイズ・性感染症予防講演会事業」で行う講演会で各保健福祉事務所の担当者へ配布
7月26日	7月29日	大分県福祉保健部	300	500	HIV及び性感染症における保健所での相談者に配布
7月27日	7月29日	滋賀県南部健康福祉事務所 (滋賀県草津保健所)	200	200	特定感染症検査実施時に受検者へ配布
7月27日	7月29日	静岡市保健所	1000	500	世界エイズデーに合わせて市内の大学・専門学校・高校の学生に配布
7月28日	7月29日	仙台医療センター		100	ブロック拠点病院として、医療者研修やMSM患者教育で配布
7月29日	8月3日	北海道大学病院HIV診療支援センター	50	100	
7月29日	8月3日	岐阜県立多治見病院周産期母子管理センター	50	50	
7月30日	8月3日	和歌山市保健所保健対策課	100	100	市内の高校、専修学校、大学に配布し、生徒や学生からの健康相談に利用。市内で性感染症が増えていることを周知するイベントで配布
8月4日	8月6日	横浜市健康福祉局(横浜市保健所)	30	30	HIV検査相談会場や委託している横浜エイズ活動センターで配布
8月7日	8月13日	大阪府立修徳学院企画調査課		100	性被害で入所の女児や中学3年生への性教育として母や養護教諭に配布
8月17日	8月18日	熊本市健康福祉局(熊本市保健所)		100	HIV検査相談の担当職員、受検者への配布と、中学校・高校での出前講義の担当者に配布
8月26日	8月30日	神奈川県健康医療局		4000	県の「エイズ・性感染症予防講演会事業」で行う講演会で配布
9月17日	9月21日	滋賀県長浜保健所	100	100	世界エイズデーに教育機関や事業所等と受検者へ配布
10月5日	10月6日	滋賀県湖東保健福祉事務所(彦根保健所)	100	100	世界エイズデーに管内2大学の啓発ブースで学生に配布
10月7日	10月11日	東京都福祉保健局	500	500	6月の検査週間での配布が好評にて秋にも配布
11月15日	11月15日	南奈良総合医療センター 感染症内科		50	院内設置
11月15日	11月22日	夷隅保健所	300	300	管内の大学生・生徒に配布
12月23日	1月4日	大阪府健康医療部		200	教職員研修会で配布
2月4日	2月8日	大阪狭山市立第三中学校		160	中学3年生の性教育で配布
		発送合計	4030	8490	

2021年12月8日

【性病のすべてが簡単にわかる本】
 方ちなテーマに、このかわいい絵柄。この道30年の父がつくった、「性感染症のすべてが簡単にわかる本」です。電子書籍で無料なので、皆さん、ぜひぜひ見てみてください。詳細はこちら→ bit.ly/3lv32H1

「性感染症について、もっと多くの人に知ってほしい。若者にも、親にも。」
 ということでつくったのが、この本です。

開いてみたらわかるのですが、マジで全てがわかるし、めちゃくちゃわかりやすい。かかり方とか、症状とか、治し方とか、全部書いてある。

人の営みに関わる、すごく大事なテーマです。

皆様が知らなかったことも、きっとたくさんあると思います。

これは、ネットで氾濫する不確かな情報ではありません。最も信頼できるお医者さんがまとめた、この上なく正しい、そしてわかりやすい情報です。

ぜひぜひ皆様、見ていただければ幸いです。よろしくおねがいします。

無料の電子書籍の詳細はこちら→
bit.ly/3lv32H1

他134人 コメント4件 シェア6件

超いいね! コメントする シェア

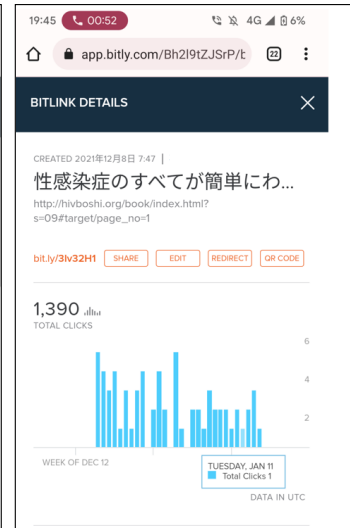


図3 インフルエンサーの Facebook への投稿文と小冊子閲覧クリック数

令和3年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業

「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学調査と情報の普及啓発方法の開発
ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」班

分担研究報告書

研究分担課題名：HIV感染妊娠に関する研究の統括と情報の普及啓発方法の開発および診療体制の整備
と均てん化 国民への情報普及および啓発チーム

研究分担者：喜多恒和 奈良県総合医療センター周産期母子医療センター長兼産婦人科統括部長
チームリーダー：

高野政志 防衛医科大学校病院産婦人科 教授

研究協力者：浅野 真 東京都立大塚病院産婦人科医員

石橋理子 奈良県総合医療センター産婦人科 医長

佐野 貴子 神奈川県立衛生研究所 微生物・主任研究員

鈴木 ひとみ 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター
HIVコーディネーターナース

谷村憲司 神戸大学大学院研究科外科系講座 産婦人科分野 准教授

多田和美 獨協医科大学医学部・大学院産婦人科講座 講師

中野瑞紀 仙台医療センター母子医療センター 助産師

長與 由紀子 九州医療センターAID/HIV 総合治療センター HIV専任看護師

羽柴 知恵子 名古屋医療センター看護部エイズ治療開発センター
HIVコーディネーターナース

廣瀬 紀子 山梨県立北病院医療安全管理室 看護師長

松田秀雄 松田母子クリニック 院長

桃原祥人 JA とりで総合医療センター産婦人科 部長

森實真由美 美ら海ハシイ産婦人科 院長

渡邊 英恵 豊橋医療センター看護部 看護師長

研究要旨：

国民を対象として本研究班の活動内容を含むHIV母子感染について情報を発信し、正しい知識を啓発してことを目的として、今年度より当班内に「国民への情報普及および啓発チーム」を創設した。今年度の活動内容として、①ホームページ活動、②普及・啓発活動、③効果調査活動、の3本柱を予定した。①③の内容については、別項で詳細に報告するが、本項では②について述べる。今年度は、AIDSフォーラムへ複数、エントリーを試みたが、実際にセッションを開催できたのが、AIDSフォーラム in Yokohama だけであった。タイトルは「防げる、防ごう、母子感染！～ウイルス感染症～」として、コロナウイルス、HPVウイルス、HIVウイルスの3つのウイルス疾患の概要、母子感染するか否かについて解説した。ZOOMの画面上で参加人数は103名であり、当グループ独自に行ったアンケート調査には28名が、主催者側で提示したアンケートには45名が回答した。それらによれば、参加者は若年女性が多く、内容に

については概ね好意的な意見が大多数を占めた。もっと長く解説を聞きたかったとする意見も多く頂いた。次年度はさらに多くのWEBセミナー、対面での会合を予定し、情報の普及、啓発活動を行いたい。

A. 研究目的

わが国では HIV/AIDS 感染に対して過剰に恐れる傾向がある一方、若い世代では、性感染症や母子感染について正しい知識を学ぶ機会が極めて少ないまま性行動が始まるのが推定されている。

我々研究班は、あらゆる世代を対象として HIV 母子感染予防の啓発活動を展開しており、当班内に「国民への情報普及および啓発チーム」を創設し活動を開始した。2021年8月にWEB形式で行われた AIDS 文化フォーラム in Yokohama において行った活動内容を、アンケートをもとに振り返り、今後の普及、啓発行動への参考にすることを目的とした。

B. 研究方法

2021年8月6日から8月8日までの3日間に、行われた AIDS 文化フォーラム in Yokohama において、「防げる、防ごう、母子感染 ～ウイルス感染症～」と題するセッションを開催し、WEBでの双方向型の講演会を行った。このフォーラムは1994年のエイズ国際会議にあわせて始まり、「ボランティア、NGO、専門家たちがお互いの資源を持ちよることで「思い」を実現する手弁当型のフォーラムであり、今年第28回であり、ことしは AIDS 文化フォーラムとして唯一、一般参加者を募って開催される会合であった。このセッションのなかで当班独自のアンケートを実施するとともに、主催者側での定型的なアンケートを実施しており、それらの結果を独立して回収し、参加者の年齢、性別、参加形式、内容の理解度、満足度等を検討した。

当班独自のアンケート内容

1. 本日の内容全体についてお聞かせ頂けますか？（面白かった、普通、つまらなかった）
2. こんなことを知りたかったなど、ありました

でしょうか？（コロナ、HPV、HIV、それぞれのウイルスについて）

3. HIVが母子感染するということを知っていましたか？
4. HIVスクリーニング検査を妊婦健診で行うことを知っていましたか？
5. HIVスクリーニング検査で陽性の結果でも、95%以上は偽陽性（偽の陽性）であることを知っていましたか？
6. HIVスクリーニング検査で陽性と出た場合、確認検査の結果が出るまでに1週間かかります。それを待つ間、あなたの気持ちはどうでしょうか？
7. あなたの年齢をお聞かせ頂けますか？
8. あなたのジェンダーをお聞かせ頂けますか？
9. （女性の方のみ）出産回数をお聞かせください。
10. あなたの婚姻状態についてお聞かせ頂けますか？
11. 今後のフォーラム等で取り上げて欲しい内容や、活動へのご意見があればお聞かせ下さい。

主催者側で定型的なアンケート内容

1. 8/6（金）どのプログラムに参加されましたか？
2. 参加目的（複数回答可）
3. 参加目的は達成されましたか？
4. プログラムの長さについて
5. 講座への感想・質問など
6. AIDS文化フォーラム in 横浜に参加されたことはありますか？
7. 当フォーラムのことを何でお知りになりましたか？（複数回答可）
8. 今回のプログラムはどのツールで参加され

ましたか？

9. 今回のプログラムは何人で視聴していますか。
10. 今後の AIDS 文化フォーラム in 横浜の開催方法に
11. 今後、AIDS 文化フォーラム in 横浜に期待されることがありましたらお書きください。
12. 年齢（年代）
13. 職業等
14. 居住地

（倫理面への配慮）

調査研究においては、文部科学省・厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守しプライバシーの保護に努めた。

C. 研究結果

2021年8月6日（金）14:45～15:30の枠で「防げる、防ごう、母子感染 ～ウイルス感染症～」のセッションを開催した。セッションは ZOOM で開催され、事前登録をした参加者が各々参加する形で開催された。事前の宣伝としては、主催者のホームページで掲示されることと、当班の班員からの口コミでの宣伝がなされた。資料1に担当者、ならびに3種のウイルスについての発表概要を示した。当班の班長（奈良総合医療センター産婦人科医師 喜多恒和）の挨拶から始まり、下記に示す通り、3名が3種のウイルスに関して母子感染、感染予防法を中心にプレゼンテーションを行い、最後に質疑応答を行った。

- ① 新型コロナウイルス感染症の概要、母子感染、予防法について（神戸大学産科婦人科医師 出口雅士）
- ② HPV ウイルスによる疾患（尖圭コンジローマ、子宮頸がん）、母子感染の有無について（防衛医大産科婦人科医師 高野政志）
- ③ HIV 感染症の検査法、母子感染の状況、予防法について（名古屋医療センター HIV コーディネーター 羽柴千恵子）

プレゼンテーション後の質疑応答に関しては、HPV 既感染者に対するワクチンの効果、積極的接種対象年齢をこえた女性に対する接種の効果などを中心に活発にご質問いただき、討論頂いた。実施中の ZOOM 表示による参加人数は 103 名であり、当グループ独自に行ったアンケート調査には 28 名が、主催者側で提示したアンケートには 45 名が回答した。

資料2に当班独自のアンケート、ならびに主催者アンケートの集計内容を示した。

当班独自のアンケートでは、年齢は 10 代、または 20 代前半が 3/4 を占めており、9 割以上が女性、経産婦は約 2 割、既婚が約 2 割であった。内容については 21%が大変面白かった、46%が面白かった、32%が普通と答えた。こんなことを知っていたものとしては、コロナウイルスでは、今後の動向、ワクチンの有効性等を、HPV ウイルスでは、感染予防、HPV 初期症状、ワクチンの有効性等を、HIV ウイルスでは、感染予防、症状、感染者の気持ちなどがあげられた。HIV が母子感染するということを知っていましたか？との問いには、いいえが 14%であり、HIV スクリーニング検査を妊婦健診で行うことを知っていましたか？の問いには、いいえが 21%であった。また、HIV スクリーニング検査で陽性の結果でも、95%以上は偽陽性（偽の陽性）であることを知っていましたか？の問いには、いいえが 64%、HIV スクリーニング検査で陽性と出た場合、確認検査の結果が出るまでに 1 週間かかります。それを待つ間、あなたの気持ちはどうでしょう？の問いには、89%が非常に動揺する、と答えた。今後のフォーラム等で取り上げて欲しい内容や、活動へのご意見があればお聞かせ下さい、との問いには、不妊、なし、との答えがあった。

主催者によるアンケートで職業については、学生が 71%、保健・医療・福祉係が 22%であった。参加ツールは PC が 44%、スマートフォンが 51%であった。試聴は、単独が 91%、複数が 9%であり、本フォーラムへの参加経験は初回が 82%、2 回目以降が 18%であった。参加目的（複数回答）

は知識・情報得るための93%、スキルアップが20%、学校の課題が9%などであり、プログラムの長さはちょうどよいが73%、短い27%、長いと答えたものはいなかった。本フォーラムを知ったきっかけ（複数回答）は、学校が67%、ホームページが16%、仕事関係が9%、仕事関係が9%、知人・友人が7%などであった。今後の開催形式は会場が11%、オンラインが11%、両方選択性が78%であった。本セッションへの感想・質問（自由記載）として、よかった、あるいはもっと聞きたかったなど良好な内容が大部分であったが、自分にとっては難しい内容とこたえたもの、9価を無料接種の対象にしてほしい、などの意見もあった。AIDSフォーラム全般に関する意見としては、先生方に変化がほしい、パターン化してきた、との意見があった。

アンケートのまとめとしては、

- ① 回答者の多くが、女性、未婚、学生であった。
 - ② 評価は概ね、良好であったが、内容は“普通”とするもの、難解であったとするものもあった。
 - ③ 参加目的等から医療系の女学生が学校の課題として、多く参加したと推定される。
 - ④ 妊婦に対するHIVスクリーニング検査、母子感染予防対策を知らないとするものが2割程度みられた。
 - ⑤ HIV感染後の心理状態、薬剤副作用等の実際を知りたいとするものがいた。
 - ⑥ コロナ、HPVに関してはワクチン、今後の動向に興味をもつものがいた。
- などがあげられる。

AIDSフォーラムでの発表概要、ならびにアンケート調査の結果については日本性感染症学会第34回学術大会でWEBによる口演発表を行った。また、AIDS文化フォーラムin横浜の報告書として発刊された（資料3）。

D. 考察

昨今の新型コロナ感染症の影響で、一般参加者を募る形式で開催されたフォーラムは、横浜だけであった。また、横浜のフォーラムも、対面での実施はなく、ZOOMでのWEB開催で実施された。WEB開催という気軽さもあったためか、本セッションへはZOOMでの画面上、103名の参加者が確認された。当班独自のアンケートへ誘導するQRコードはセッションの最後にWEB画面上に掲示したが、掲示時間が十分にはとれなかった。その後、主催者の画面に変わってしまい、主催者のアンケートへ誘導するQRコードは、長期に掲載されており、アンケートに答えてよいと考えた参加者は主催者アンケートへのアクセスの方がより容易であったと推察する。その結果、当班独自アンケートは28名、主催者アンケートは45名が回答した。

アンケート回答者からみえてきた参加者の多くは、女性、未婚、学生が占めており、医療系の学生が学校で本セッションを知り、情報収集や課題として参加した者が多かったようである。内容への感想としては概ね良好であったとするものが大部分であったが、“普通であった”とするものが約1/3であり、難しかったとの意見もあり、理解度にも幅があることを認識したうえで難易度を考える必用もあるであろう。HIV感染やスクリーニング検査に関する知識としては、HIVが母子感染することを知らない人が14%、妊婦健診でHIV検査をすること知らない人が21%と、ある程度存在することは特筆すべきことと強調しておきたい。HIVスクリーニング検査で陽性でも95%は偽陽性であることは約1/3しか知らなかった。また、確認検査の結果が出るまでに1週間かかります。それを待つ間、あなたの気持ちはどうでしょう？の問いには、89%が非常に動揺する、と答えており、正確な情報を伝えたうえで、妊婦に対するスクリーニング検査を実施すべきと、再確認した。

さらに知りたかった情報として、コロナウイルスは、まさにコロナ禍の第5波の真っ最中でもあったため、今後の動向やワクチンについて知りたいとする意見があった。HPVウイルスは感染予防

や、HPV 感染の初期症状を知りたいとするものがあった。AIDS フォーラム開催時は HPV ワクチン積極的勧奨が再開されていない時期であったが、自分が1回目のワクチン接種後で興味が高く、有効性についてもっと知りたいとの意見もあった。一方、HIV ウイルスについては、感染予防について知りたいとするもの、身近に感染者がおらずどんな症状があるのかわからないとするものがある反面、感染後の生活で困ること、本人の気持ちの変化、さらには抗 HIV 薬の種類、副作用等、感染者の身体的・精神的状態やふだんの生活について知りたいとする意見があり、慢性疾患としての HIV/AIDS について深くしりたいと発言する意見があり、今後の同様なセッションを開催する際のヒントになるものと考える。

E. 結論

AIDS 文化フォーラム in 横浜で「防げる、防ごう、母子感染 ～ウイルス感染症～」と題するセッションを開催参加して、100 名をこえる参加者と双方向性のセッションを実施した。アンケート回答者の多くが満足できるプログラムを提供できているものと推察はするが、今後の性感染症に関する啓発活動において聴衆が知りたいとする細部について知ることができた。

来年度以降の啓発プログラムの改正のための貴重な資料を得ることができた。

G. 研究業績

学術論文

(欧文)

1. Iwahashi Hideki, Miyamoto Morikazu, Ito Tsubasa, Suminokura Jinn, Hada Taira, Hiroki Ishibashi, Kakimoto Soichiro, Matsuura Hiroko, Suzuki Rie, Sinya Minabe, Susumu Matsukuma, Tsuda Hitoshi, Masashi Takano. Clinical significance of CD8-positive lymphocytes on tumor cell clusters of ascites cell block in ovarian high-grade serous carcinoma. *Cancer Medicine*. in press.
2. COVIDSurg Collaborative* (Hada Taira, Iwahashi Hideki, Miyamoto Morikazu, Suminokura Jinn, Takano Masashi) Effect of COVID-19 pandemic lockdowns on planned cancer surgery for 15 tumour types in 61 countries: an international, prospective, cohort study. *Lancet Oncol* 2021. 22(11):1507-1517.
3. COVIDSurg Collaborative* (Hada Taira, Iwahashi Hideki, Miyamoto Morikazu, Suminokura Jinn, Takano Masashi) Effects of pre-operative isolation on postoperative pulmonary complications after elective surgery: an international prospective cohort study. *Anaesthesia* 2021 76(11):1454-1464.
4. COVIDSurg Collaborative* (Hada Taira, Iwahashi Hideki, Miyamoto Morikazu, Suminokura Jinn, Takano Masashi) SARS-CoV-2 vaccination modelling for safe surgery to save lives: data from an international prospective cohort study. *British Journal of Surgery* 2021: 108(9):1056-1063.
5. COVIDSurg Collaborative* (Hada Taira, Iwahashi Hideki, Miyamoto Morikazu, Suminokura Jinn, Takano Masashi) SARS-CoV-2 infection and venous thromboembolism after surgery: an international prospective cohort study. *Anaesthesia*. 2022; 77(1): 28-39.
6. COVIDSurg Collaborative*, GlobalSurg Collaborative* (Hideki Iwahashi, Miyamoto Morikazu, Masashi Takano) Timing of surgery following SARS-CoV-2 infection: an international prospective cohort study. *Anaesthesia* 2021: 76(6):748-758.
7. Ishibashi Hiroki, Hagsisawa Kohsuke,

Kinoshita Manabu, Yuki Yukako, Miyamoto Morikazu, Kure Tomoko, Sakai Hiromi, Saitoh Daizoh, Terui Katsuo, Takano Masashi. Resuscitative efficacy of hemoglobin vesicles for severe postpartum hemorrhage in pregnant rabbits. Scientific Reports 2021: 11(1):22367.

8. Ishibashi Hiroki, Miyamoto Morikazu, Iwahashi Hideki, Matsuura Hiroko, Kakimoto Soichiro, Sakamoto Takahiro, Hada Taira, Takano Masashi. Criteria for placenta accreta spectrum in the International Federation of Gynaecology and Obstetrics classification, and topographic invasion area are associated with massive hemorrhage in patients with placenta previa. Acta Obstet Gynecol Scand. 2021 Jun;100(6):1019-1025.

(和文)

1. 東 俊介, 笹 秀典, 石橋 弘樹, 岸本 直久, 川井 まりえ, 羽田 平, 宮本 守員, 鈴木 理絵, 桑田 幸治, 高野 政志. 妊娠中の消化器症状により四肢脱力感を伴う著明な低カリウム血症をきたした2例. 埼玉県医学会雑誌 2022: 56(1):339-342.
2. 大塚 由花, 吉田 祐輔, 高野 政志, 黒川 貴幸. ジカウイルス感染症流行地に入国する海上自衛官に対する感染症教育の検討. 日本周産期・新生児医学会誌2021: 37(3):416-421.
3. 本間 晶梨, 笹 秀典, 石橋 弘樹, 大下 珠緒, 川内 華佳, 岩橋 秀樹, 垣本 壮一郎, 松浦 寛子, 宮本 守員, 島崎 英幸, 高野 政志. 妊娠中の子宮頸部円錐切除術に関する検討. 埼玉県医学会雑誌 2021: 55(1):285-289.
4. 翼, 岸本 直久, 角倉 仁, 石橋 弘樹, 宮本 守員, 鈴木 理絵, 若松 太, 新本 弘, 高野 政志. 四肢短縮の胎児に 3D-CT を施行し軟骨無形成症と診断した1例 第67回 防衛衛生学会, 2022.02
2. 杉浦 敦, 竹田 善紀, 市田 宏司, 中山 彰一郎, 笠浦 茂樹, 中西 美紗緒, 桃原 祥人, 高野 政志, 小林 裕幸, 高橋 尚子, 藤田 綾, 山田 里佳, 吉野 直人, 大津 洋, 田中 瑞恵, 外川 正生, 喜多 恒和. HIV 感染妊娠における治療薬の推移に関する検討 第35回日本エイズ学会学術集会, 2021.11
3. 山中 彰一郎, 杉浦 敦, 市田 宏司, 竹田 善紀, 中西 美紗緒, 笠浦 茂樹, 高野 政志, 桃原 祥人, 小林 裕幸, 藤田 綾, 橋 尚子, 吉野 直人, 山田 里佳, 田中 瑞恵, 大津 洋, 外川 正生, 喜多 恒和. HIV 感染妊娠に対する母子感染予防対策がもたらした効果の検討 第35回日本エイズ学会学術集会, 2021.11
4. 高野 政志, 出口 雅士, 羽柴 智恵子, 鈴木 ひとみ, 喜多 恒和. エイズ文化フォーラム「防げる、防ごう、母子感染!~ ウイルス感染症~」でのアンケート解析 (エイズ文化フォーラム「防げる、防ごう、母子感染!~ ウイルス感染症~」でのアンケート解析) 日本性感染症学会 第34回学術大会, 金沢歌劇座、金沢、石川県 (WEB), 2021.11
5. 岩橋 秀樹, 笹 秀典, 西谷 想子, 伊藤 翼, 角倉 仁, 垣本 壮一郎, 宮本 守員, 鈴木 理絵, 高野 政志. ワークショップ 11「妊娠女性の頸部細胞診」妊娠中における子宮頸部上皮内腫瘍の取り扱い を発表した 第60回日本臨床細胞学会秋期大会, 鳥取県米子市, 2021.11
6. 田岡 拓輔, 浜口 大志, 笹 秀典, 伊藤 翼, 岸本 直久, 角倉 仁, 石橋 弘樹, 宮本 守員, 鈴木 理絵, 高野 政志. 胎児期に軟骨無形成症と診断し得た1例 (胎

学会発表


1. 田岡 拓輔, 浜口 大志, 笹 秀典, 伊藤

児期に軟骨無形成症と診断し得た 1 例について報告した) 第 142 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会, 横浜市, 2021. 11

7. 川井 まりえ, 鈴木 理絵, 伊藤 翼, 岸本直久, 角倉 仁, 浜口 大志, 羽田 平, 坂元 崇洋, 石橋 弘樹, 岩橋 秀樹, 松浦 寛子, 宮本 守員, 笹 秀典, 高野 政志. 当院におけるサラセミア合併妊娠の検討 第 57 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 宮崎県, 2021. 07
8. 鈴木 理絵, 伊藤 翼, 岸本 直久, 角倉 仁, 坂元 崇洋, 石橋 弘樹, 岩橋 秀樹, 垣本 壮一郎, 松浦 寛子, 宮本 守員, 關中 悠仁, 水足 邦雄, 松本 浩, 笹 秀典, 高野 政志. 新生児搬送後に母児の筋強直性ジストロフィーが疑われ遺伝カウンセリングに苦慮した 1 例 第 45 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 岩手県, 2021. 07
9. 東 俊介, 笹 秀典, 岸本 直久, 川井 まりえ, 羽田 平, 石橋 弘樹, 宮本 守員, 鈴木 理絵, 桑田 幸治, 高野 政志. 消化器症状と四肢脱力感を呈し著明な低カリウム血症を来した妊娠の 2 例 第 58 回埼玉県医学会総会, Web 開催, 2021. 02

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし



AIDS文化フォーラム in Yokohama

- 1994年のエイズ国際会議にあって始まった。
- ボランティア・NGO・専門家たちがお互いの資源を持ち寄ることで『思い』を実現する手弁当型フォーラム。
- 2021年8月6日～8日
- オンライン開催

2021年 第28回 AIDS文化フォーラム in 横浜
8月6日(金) プログラム

<p>8月6日(金) 10:00-12:00 情報による社会の分断 ～「感染者・支援者・仏えんえん」受け取る人～</p> <p>8月6日(金) 12:15-12:45 山田香子のオンライン・ミニ講座 (with 星野貴孝) ①</p> <p>8月6日(金) 13:00-14:30 情報に頼らされないために 「防げる、防ごう、母子感染」～ウイルス感染症～</p> <p>8月6日(金) 14:45-15:30 防げる、防ごう、母子感染！～ウイルス感染症～</p>	<p>8月6日(金) 15:45-17:00 つながりの参加者になるためには ～感染と生きる 豊田由紀子さんと私たちの社会参加を促すのは～</p> <p>8月6日(金) 16:00-16:45 エイズ監視センター ハッピーホームのその後 ～TACA</p> <p>8月6日(金) 17:15-18:00 防衛医大産科婦人科 高野政志医師 HPVウイルスによる疾患(尖圭コンジローマ、子宮頸がん)、母子感染の有無について</p> <p>8月6日(金) 17:15-18:00 ブームではおられない、性教育の本を費しました！ ～AIDS文化フォーラム～</p>
---	--

**防げる、防ごう、母子感染
～ウイルス感染症～**

コロナもHIVもこわ～い！赤ちゃん産めるの？
そんな気持ちを持っている人、一緒に語りあいましょ。

8月6日(金)14:45～15:00 45分のZOOM発信

事前の宣伝:主催者HP、研究班員から知り合いへ

発表内容

班長あいさつ(喜多恒和医師)

- 1 新型コロナウイルス感染症の概要、母子感染、予防法について(神戸大学産科婦人科 出口雅士医師)
- 2 HPVウイルスによる疾患(尖圭コンジローマ、子宮頸がん)、母子感染の有無について(防衛医大産科婦人科 高野政志医師)
- 3 HIV感染症の検査法、母子感染の状況、予防法について(名古屋医療センター HIVコーディネーター 羽柴千恵子看護師) 質疑応答

発表の概要「新型コロナウイルス」

- 新型コロナウイルスの構造、パンデミックの歴史
- 新型コロナウイルス感染症の症状、発生状況
- 妊婦と新型コロナウイルス感染症
- 新型コロナウイルスの母子感染予防
- マスクの効果
- ワクチンの働き、有効性
- 子育て中の新型コロナウイルス予防

発表の概要「HPVウイルス」

- HPVウイルスによる感染症概論
- 尖圭コンジローマの概要、母子感染の有無
- HPVウイルス関連の悪性腫瘍
- 子宮頸がんの自然史
- 子宮頸部腫瘍の治療、予後
- 子宮頸がんの母子感染
- HPVワクチンの効果・副作用

発表の概要「HIVウイルス」

- HIV感染症とは、3大感染ルート
- HIV母子感染のメカニズム、予防法
- 胎児、新生児への予防対策
- 小児のHIV/AIDSの現状
- 本邦の感染妊婦、母子感染の報告について
- 妊婦HIVスクリーニング検査の実施率、擬陽性
- 感染判明後の妊娠回数
- ガイドライン、リーフレットの紹介

資料 2

アンケートへの返答者

- ZOOM画面での参加者 **n=103**
- ↓
- 当班独自のアンケート(Google Form)n=28
- 主催者独自のアンケート **n=45**

資料 2

当班独自のアンケート n=28

年齢

年齢	割合
20~24	25%
25~29	30%
30~34	10.7%
35~39	10.7%
40~	10.7%
<20歳	39.3%
答えたくない	0%

出産回数

回数	割合
0回	80.8%
1回	11.5%
3回~	0%

ジェンダー

性別	割合
女	92.9%
男	0%
答えたくない	0%

婚姻状態

状態	割合
未婚	82.1%
既婚	14.3%
離別	0%

資料 2

当班独自のアンケート n=28

こんなことを知りたかったなど、ありましたでしょうか？
コロナウイルスについて(4件の回答)

回答	割合
大変面白かった	21.4%
面白かった	46.4%
普通	32.1%
つまらなかった	0%
大変つまらなかった	0%

資料 2

当班独自のアンケート n=28

こんなことを知りたかったなど、ありましたでしょうか？
コロナウイルスについて(4件の回答)

- 今後どうなっていくか
- ワクチン
- ワクチンの有効性
- なし

資料 2

当班独自のアンケート n=28

こんなことを知りたかったなど、ありましたでしょうか？
HPVウイルスについて(5件の回答)

- 感染予防
- H PV初期症状を知りたい。どんなことで気づけるのか
- 興味がある。子宮頸がんワクチンをもうじき2回目打ちます。
- ワクチン有効性
- なし

資料 2

当班独自のアンケート n=28

こんなことを知りたかったなど、ありましたでしょうか？
HIVウイルスについて(5件の回答)

- 感染予防
- 身近にいないので、どんな症状があるのかよくわからない。
- 薬はどんな種類でどんな副作用や、生活における困ったことなどの実際の声
- 感染してからの本人の気持ちとどの様に変化していくのか
- なし

資料 2

当班独自のアンケート n=28

HIVが母子感染するということを知っていましたか？

回答	割合
はい	85.7%
いいえ	14.3%

HIVスクリーニング検査を妊婦健診で行うことを知っていましたか？

回答	割合
はい	78.6%
いいえ	21.4%

資料 2

当班独自のアンケート n=28

HIVスクリーニング検査で陽性の結果でも、95%以上は偽陽性(偽の陽性)であることを知っていましたか？

回答	割合
はい	35.7%
いいえ	64.3%

HIVスクリーニング検査で陽性と出た場合、確認検査の結果が出るまでに1週間かかります。それを待つ間、あなたの気持ちはどうでしょう？

回答	割合
非常に動揺する	10.7%
ほとんどが偽陽性と知っており落ち着いていられる	89.3%
あまり気にしない N = 0	0%

資料 2

当班独自のアンケート n=28

今後のフォーラム等で取り上げて欲しい内容や、活動へのご意見があればお聞かせ下さい。(2件の回答)

- ・ 不妊
- ・ なし

資料2

AIDS文化フォーラムin横浜 主催者アンケート (n=45)

職業等	小計	割合 (%)
学生	32	71
保健・医療・福祉関係	10	22
教育関係	2	4
主婦	1	2

資料2

AIDS文化フォーラムin横浜 主催者アンケート (n=45)

今回のプログラムはどのツールで参加されましたか？	小計	割合 (%)
PC	20	44
スマートフォン	23	51
タブレット	2	4

資料2

AIDS文化フォーラムin横浜 主催者アンケート (n=45)

今回のプログラムは何人で視聴していますか？	小計	割合 (%)
学校や職場、コミュニティの仲間と視聴 (10人以上)	3	7
学校や職場、コミュニティの仲間と視聴 (10人未満)	1	2
自分のみで視聴	41	91

資料2

AIDS文化フォーラムin横浜 主催者アンケート (n=45)

AIDS文化フォーラムin横浜に参加されたことはありますか？	小計	割合 (%)
毎年参加している	4	9
何回か参加したことがある	4	9
今回初めて参加した	37	82

資料2

AIDS文化フォーラムin横浜 主催者アンケート (n=45)

参加目的 (複数回答可)	小計	割合 (%)
知識・情報を得るため	42	93
教育・指導・啓発・相談等のスキルアップ	9	20
学校の課題のため	4	9
学校での参加	2	4
実習の課題だった為	1	2
ネットワークづくり	1	2

資料2

AIDS文化フォーラムin横浜 主催者アンケート (n=45)

プログラムの長さについて	小計	割合 (%)
長い	0	0
ちょうどよい	33	73
短い	12	27

資料2

AIDS文化フォーラムin横浜 主催者アンケート (n=45)

当フォーラムのことを何でお知りになりましたか？ (複数回答可)	小計	割合 (%)
学校	31	67
ホームページ	7	16
チラシ、ポスター	2	4
仕事関係	4	9
知人・友人	3	7
仕事関係	4	9
Twitter	1	2
参加団体	1	2

資料2

AIDS文化フォーラムin横浜 主催者アンケート (n=45)

今後のAIDS文化フォーラムin横浜の開催方法について	小計	割合 (%)
会場での開催を希望	5	11
オンラインでの開催を希望	5	11
両方選べると良い	35	78

資料2

AIDS文化フォーラムin横浜 主催者アンケート (n=45)

・講座への感想・質問など (自由記載)

- ・ コロナウイルス感染症、HPV感染症、HIV感染症について、新たな学びを得ることができました。
- ・ スライドも見やすくわかりやすかった
- ・ とても興味深く、知りたい情報をたくさん得ることができました。
- ・ もっと4人の先生方のお話を聞きたかったです
- ・ 専門的ですが、わかりやすいお話で、コンパクトにまとまっていて、とても分かりやすかったです。最近の知見も学べて、良かったです。ありがとうございました。
- ・ 良かったです
- ・ 早く9価も無料接種の対象になってほしいです。
- ・ 自分にとっては難しいテーマだった。

資料2

AIDS文化フォーラムin横浜 主催者アンケート (n=45)

・ 今後、AIDS文化フォーラムin横浜に期待されることがありましたらお書きください。(自由記載)

- ・ どのプログラムも先生方に変化がほしい。パターン化してきた感じがします。
- ・ なし

資料2

AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

第28回 報告書



防げる、防ごう、母子感染！～ウイルス感染症～

主催：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」喜多班

内容：当日は研究班の班長（奈良総合医療センター産婦人科医師 喜多恒和さん）の挨拶から始まり、3名が3種のウイルスに関して母子感染、感染予防法を中心にプレゼンテーションを行い、最後に質疑応答を行った。

1. 新型コロナウイルス感染症の概要、母子感染、予防法について（神戸大学産科婦人科医師 出口雅士さん）
2. HPVウイルスによる疾患（尖圭コンジローマ、子宮頸がん）、母子感染の有無について（防衛医大産科婦人科医師 高野政志さん）
3. HIV感染症の検査法、母子感染の状況、予防法について（名古屋医療センター HIVコーディネーター 羽柴千恵子さん）

プレゼンテーション後の質疑応答に関しては、HPV既感染者に対するワクチンの効果、積極的接種対象年齢をこえた女性に対する接種の効果などを中心に活発にご質問いただき、討論いただいた。実施中のZOOM表示による参加人数は103名であり、当グループ独自に行ったアンケート調査には28名が、主催者側で提示したアンケートには45名が回答した。アンケートによれば、参加者は若年女性が多く、内容については概ね好意的な意見が大多数を占めた。もっと長く聞きたかったとする意見も多くいただき、今後の活動へ反映していきたい。

連絡先：喜多班長の所属先：〒630-8581 奈良市七条西町2丁目897-5 奈良県総合医療センター
TEL.0742-46-6001 FAX.0742-46-6011 URL(喜多班)： <http://www.hivboshi.org/organization/index.html>

令和3年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業

「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学調査と情報の普及啓発方法の開発
ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」班

分担研究報告書

研究分担課題名：HIV感染妊娠に関する研究の統括と情報の普及啓発方法の開発および
診療体制の整備と均てん化
～ 医療従事者への情報普及啓発と診療体制の整備と均てん化 ～

研究分担者：喜多恒和 奈良県総合医療センター
周産期母子医療センター長・産婦人科統括部長

研究協力者：出口雅士 神戸大学大学院医学研究科外科系 講座産婦人科学分野 特命教授
五味淵秀人 吉田産科婦人科医院 医師
定月みゆき 国立国際医療研究センター産婦人科 産科部長
杉野祐子 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター
HIVコーディネーターナース

中西美紗緒 国立国際医療研究センター産婦人科 医師
中西 豊 名古屋医療センター産婦人科 部長
中野真希 横浜市立市民病院 NICU/GCU 病棟 看護師長（助産師）
蓮尾泰之 九州医療センター産婦人科 部長
羽柴 知恵子 名古屋医療センター看護部エイズ治療開発センター
HIVコーディネーターナース

林 公一 関門医療センター産婦人科 部長

研究要旨：

2021年3月に発刊された HIV 感染妊娠に関するわが国独自の診療ガイドライン第2版ならびに2019年3月に改訂発刊された HIV 母子感染予防対策マニュアル第8版により、日本全国において HIV 感染 妊婦診療の均てん化が期待される場所である。これまで国内では一定数の施設で HIV 感染妊婦の受入が行われている。既に海外ではウイルスコントロールが良好な症例に対しては経膣分娩が行われていることもあり、2021年3月のガイドラインの改訂では、陣痛発来前の帝王切開の推奨に加えて、国内でもウイルスコントロールが良好な症例で施設が対応可能な場合は経膣分娩を考慮する事を初めて併記した。一方、国内では HIV 妊婦の分娩は多くなく、HIV 感染妊婦の経膣分娩を可能とする施設は現時点ではほとんどない。今後 HIV 感染妊婦が安全に経膣分娩できる診療体制を整えることを課題としている。

A.研究目的

平成30年度に行った HIV 感染妊婦に対する診療体制の現状調査から、エイズ拠点病院かつ周産期母子医療センターの約7割の113施設で HIV 感染妊婦の受け入れが可能であった。そのうち、経膣分娩を積極的に考えているの

は7施設のみで、そのほとんどが HIV 感染妊婦の分娩経験数は5例以下であった。一方、HIV 感染妊婦の分娩経験数が多い施設ほど経膣分娩に消極的であった。令和2年度の HIV 感染妊婦の受け入れ可能109施設（回答90施設）を対象とした調査では医師または看護職のい

ずれかが HIV 感染妊婦の自然または計画経膣分娩に対応可能と回答した施設が 21 施設あったが、そのうち過去 4 年間に HIV 感染妊婦の分娩実績がある施設はわずか 7 施設にすぎなかった。さらに医師または看護職の双方から回答が得られた 21 施設のうち、医師・看護職ともに 自然経膣分娩を受け入れると回答した施設は 1 施設に過ぎなかった。自然経膣分娩での対応が難しい理由として夜間休日のマンパワー不足や緊急帝王切開への対応が困難と回答した施設が多く、いずれも夜勤帯の手薄な状態での分娩を避けたいという状況がうかがえるとともに、医師と看護職の考え方に乖離がある可能性が示唆された。

今年度は、これまでの調査で HIV 感染妊婦の分娩の受け入れは進んだものの、経膣分娩に対するコンセンサス形成はまだ不十分であると考え、HIV 感染妊婦の受入が可能とする施設の産科医師、感染症科医師、産科看護職を対象に、ガイドライン第 2 版の分娩方法に関する記載について、アンケート調査を行い、経膣分娩の可否ならびに経膣分娩を可能とする基準についての意見集約を行うことを目的とする。なお、次年度以降、必要に応じて回答者にアンケート結果を呈示し、必要に応じて今後のガイドライン案の内容を変更して再度アンケートにお答え頂く作業を複数回繰り返すことを想定している：デルファイ法。

これらの過程を経て集約された意見については、今後のガイドライン、マニュアルの改訂の際のエビデンスとする。

あわせて、これまでの調査で HIV 感染妊婦の受入が可能としている施設が引き続き受入が可能かどうか調査し、最新の情報をホームページに反映させる。また、HIV 感染妊婦の経膣分娩に関して患者側のニーズがあるかについての調査も必要と考えており、これまでに経膣分娩を希望した妊婦がいたかどうかについても各施設からの回答を得る。

B.研究方法

平成 30 年度のアンケートで HIV 感染妊婦の受け入れ可能と回答した 113 施設のうち施設名を特定できた 109 施設の産科医師、感染症科医師、産科看護職に、別添の内容のアンケート調査を行った。

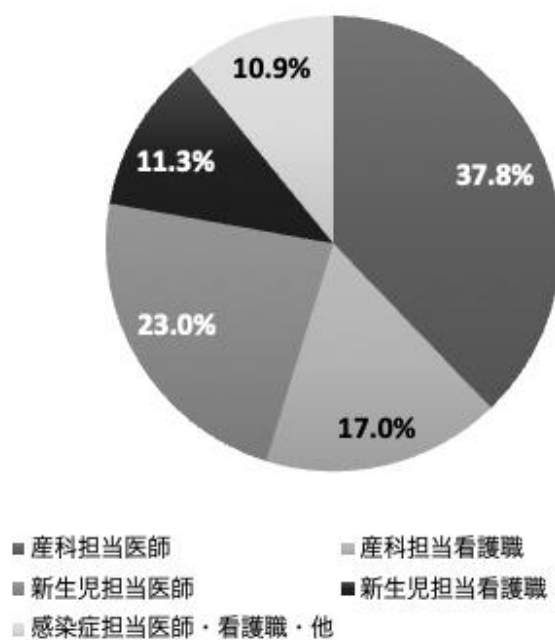
(倫理面への配慮)

調査内容については、患者個人の情報を調査するものではなく、専門家の意見と各施設の現状の調査であることから、全体研究実施に当たっての包括的な倫理承認の一環で実施するものとし、新たな倫理申請は行わなかった。

C.研究結果

研究班の協力者の中でも、経膣分娩の導入について当研究班が果たす役割が何であるか、国内での HIV 感染妊婦の分娩が少数である中で実際に経膣分娩のニーズがあるか、国内で HIV 感染妊婦の経膣分娩が可能な施設がどの程度必要か等の点において、意見の解離が大きく、アンケート調査内容の収斂に時間を要したため、調査は令和 4 年 2 月に実施した。

【図1】 回答者の内訳 (n=230)

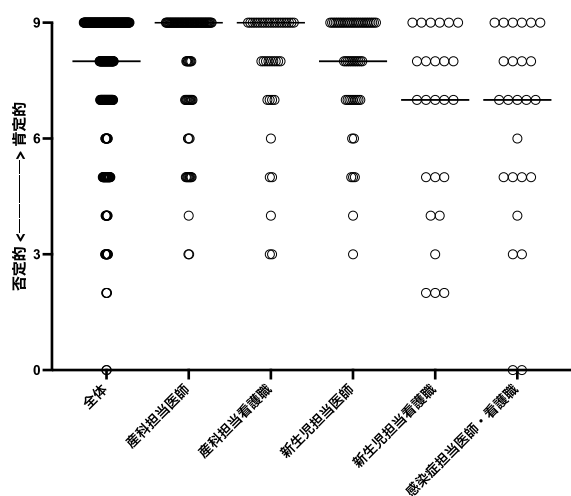


アンケートはこれまで HIV 感染妊婦の取扱

を行っている」と回答した109施設の①産科担当医師、②産科担当看護職、③新生児担当医師、④新生児担当看護職、⑤感染症担当医師・看護職宛に依頼し、無記名での回答を依頼した。230件の回答があり、回答者の内訳を【図1】に示す。回答の半数は産科担当医師ないし看護職から、1/3は新生児関係で、いずれも医師が2/3程度、看護師が1/3を占めた。感染症関係の医療職からの回答は12.5%と少なかった。回答率は全体で42%、①産科担当医師80%、②産科担当看護職36%、③新生児担当医師49%、④新生児担当看護職24%、⑤感染症担当医師・看護職24%であり、産科担当医師、次いで新生児担当医師からの回答が多かった。

1) ガイドラインでの「HIV 感染妊婦の分娩法は陣痛発来前の選択的帝王切開を推奨する」という記載に対する合意度を【図2】に示す。全体として80%が合意(7~9を選択)し、産科担当医師・看護職ならびに新生児担当医師では85%前後の合意が得られた一方、合意を示す者が感染症担当医療職では60%、新生児担当看護職では64%であり、産科担当医師と比較して新生児担当看護職(p=0.012)や感染症担当医療職(P<0.001)で有意に合意度が低かった。

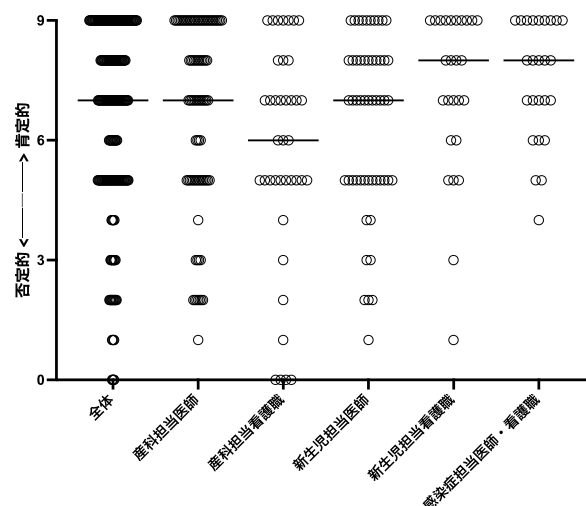
【図2】「HIV 感染妊婦の分娩法は陣痛発来前の選択的帝王切開を推奨する」に対する合意度



2) 一方、ガイドラインでの「ただし、妊娠36週までに HIVRNA 量が検出感度未満に抑えられており、かつ分娩施設が経膣分娩に

対応可能な場合に限り、経膣分娩を考慮する」という記載に対する合意度を【図3】に示す。条件付きで経膣分娩を可とするガイドラインでの推奨について、全体では62%の合意(7-9を選択)にとどまった。しかしながら先の帝王切開の推奨とは逆に、新生児担当看護職(73%が合意)や感染症担当医療職(76%が合意)で合意度が高かった。感染症担当医療職と比較して産科担当看護職(46%が合意)では合意度の低いものが有意に多かった(p=0.028)[その他、産科担当医師の63%、新生児担当医師の60%が合意]。

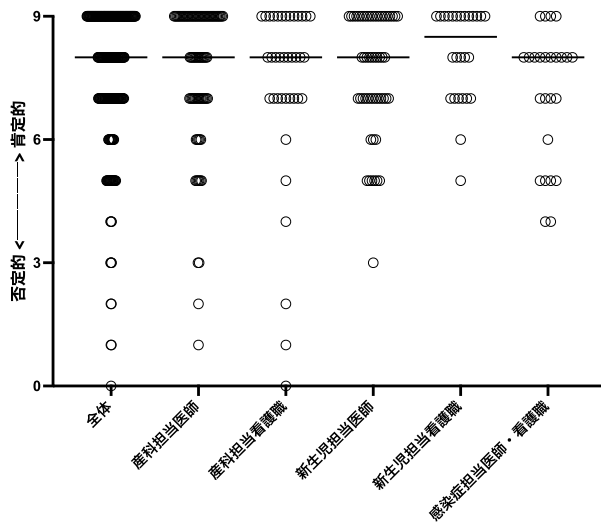
【図3】「ただし、妊娠36週までにHIVRNA量が検出感度未満に抑えられており、かつ分娩施設が経膣分娩に対応可能な場合に限り、経膣分娩を考慮する」への合意度



3) 次に、ガイドラインに示している「経膣分娩を行うために最低限満たすべき条件」に対する合意度を【図4】に示す。経膣分娩の条件について、全体として83%の合意(7-9を選択)が得られた。産科担当医師の83%、産科担当看護職の84%、新生児担当医師の81%、新生児担当看護職の92%が合意し周産期に関わる医療職で高い合意率であったのに対し、感染症担当医療職では有意差はないものの若干低い72%の合意にとどまった。また「条件付きで経膣分娩を可とすること」ならびに「経膣分娩を行うために最低限満たすべき条件」については合意度0-4を付けた産科担当医療職が少な

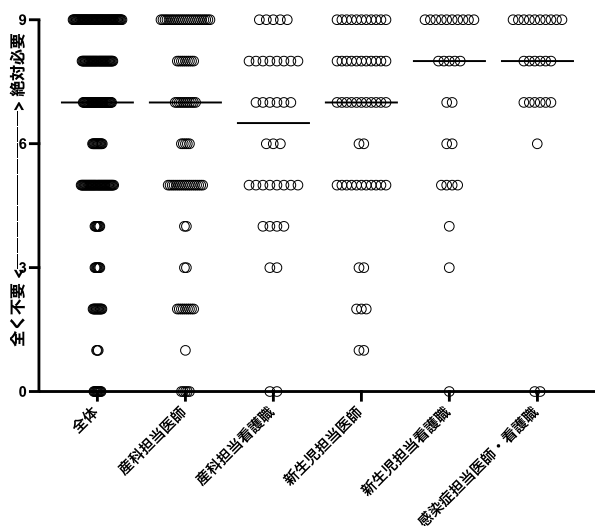
らず存在した[「条件付きで経膈分娩を可とすること」に対して産科担当医師の15% 看護職21%、「経膈分娩を行うために最低限満たすべき条件」に対して産科担当看護職の11%]。

【図4】「経膈分娩を行うために最低限満たすべき条件」への合意度



4) 続いて、「施設の状況等を考慮せず一般的に考えた場合、HIV 感染妊婦の経膈分娩を受け入れる施設が国内に必要と考えますか」という問いに対して必要と回答（7-9 を選択）したものは全体で 59%にとどまった。感染症担当医療職では必要と考えるものが 88%であったのに対し、新生児担当医師では 62%、新生児担当看護職では 65%、さらに産科担当医師で 52%、産科担当看護職では 50%にとどまった。また産科担当医師、産科担当看護職では必要ないと考えるもの

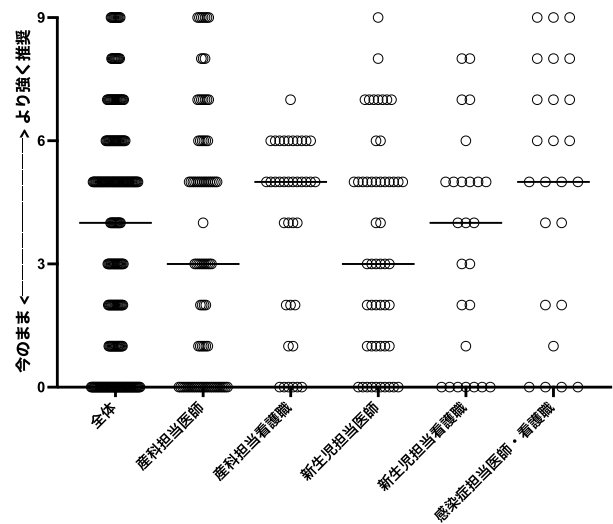
【図5】「施設の状況等を考慮せず一般的に考えた場合、HIV 感染妊婦の経膈分娩を受け入れる施設が国内に必要と考えますか」



(0-4 を選択) がそれぞれ 22%、21%と多く、周産期に直接関わる医療職の中では 0-9 まで意見が割れる結果であり、感染症担当医療職と産科担当看護職の回答分布には有意差を認めた (p=0.031)。

5) さらに「当研究班発出のガイドラインでさらに踏み込んで経膈分娩を推奨すべきでしょうか」という問いの結果では必要と回答（7-9 を選択）したものはわずか 18%にとどまった。感染症担当医療職では必要と回答した者が最も高く 36%であった一方、今のままで良いとの回答（0-4 を選択）したのも 36%であった。産科担当医師、新生児担当医師、新生児担当看護職では必要との回答がそれぞれ 20%、17%、15% [今のままが 55%、57%、58%] であり、産科担当看護職では必要と考えるものは僅かに 3%にとどまった (今のままは 40%) 全職種で中央値が 5 以下であり、各職種間で回答分布に有意差は認めなかった。

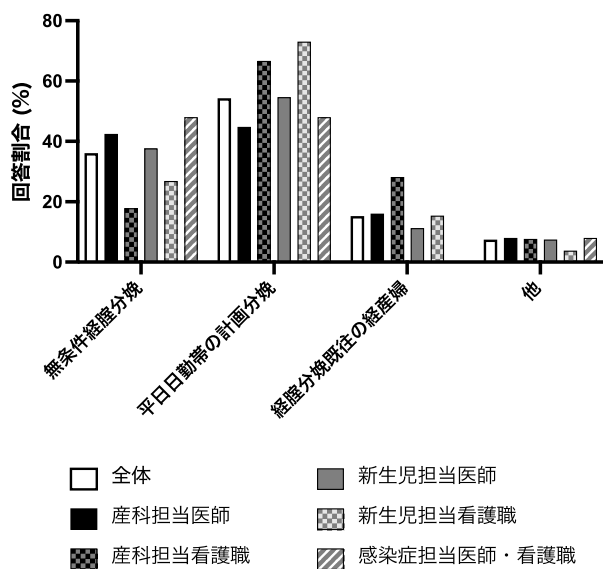
【図6】「当研究班発出のガイドラインでさらに踏み込んで経膈分娩を推奨すべきでしょうか」



6) 最後に、理想的な状況がそろったとして、経膈分娩における制限事項について問うた結果を図 7 に示す。全体では無条件の経膈分娩 36.1%、平日日勤帯の計画分娩 54.3%、経膈分娩既往の経産婦、15.2%、その他 7.4% (重複あり) の結果であった。無条件とするものは産科担当医師 42.5%、産科担当看護職

看護職 17.9%、新生児担当医師、37.7%、新生児担当看護職 26.9%、感染症担当医療職 48.0%であった。平日日勤帯での計画分娩を考えるものが半数強を占めたが、職種別では平日日勤帯での経膈分娩としたのは産科担当医師 44.8%、産科担当看護職 66.7%、新生児担当医師 54.7%、新生児担当看護職 73.1%、感染症担当医師・看護職 48.0%であり、新生児に長時間接する職種で平日日勤帯での分娩を希望する割合が高かった。特に周産期関係看護職では他職種よりも日勤帯の計画分娩を選択するものが多く、無条件とするものが少なかった。経膈分娩既往の経産婦に限るとしたものは少なかったが、産科担当医師の 16.1%に対して産科担当看護職は 28.2%と 2 倍弱の頻度であった。

【図7】 経膈分娩の実施における制限事項



D. 考察

1) ガイドラインでの「HIV 感染妊婦の分娩法は陣痛発来前の選択的帝王切開を推奨する」という記載に対する合意度は実際の対象者と想定している産科医療者、ならびに小児科医師における合意は 83-85%と高かったが、新生児担当看護職、感染症担当医療職においては 60-64%と低く、海外でウイルス量の低い例に対して経膈分娩を進めるガイドラインがある中で、一律に帝王切開とすることに

疑問を感じる医療者も一定数いることが確認された。

2) 一方、条件付きで経膈分娩を可とするガイドラインでの推奨については、帝王切開の推奨への同意が少なかった新生児担当看護職や感染症担当医療職での合意が多かった。合意度は産科担当看護職で特に低く、医師よりも長時間患者さんと時間を共にして分娩介助を行うため、医師よりも感染リスクが高いと考えているのではないかと思われる。今後、国内で経膈分娩を導入していくためには、産科担当医師以上に産科担当看護職に対する啓発活動が重要となってくると考えられた。アンケートの自由記載の中には「医療従事者への感染のリスク（可能性）についても解説いただきたい。」との意見が有り、そういった情報の蓄積と呈示も、分娩方法を検討する上での重要な情報となりうるものと考えられた。

3) 「経膈分娩を行うために最低限満たすべき条件」についても基本的には合意が得られていることが確認できた。感染症関係の医療職からは施設の限定は必要ない、基準を満たせば通常の分娩で良いのではという意見が複数ある一方、エイズ治療拠点病院あるいは周産期母子医療センターで扱うべきとの意見も見られた。産科担当医師からは HIV 診療に慣れた施設で取り扱うべきとする意見が複数あった。

「条件付きで経膈分娩を可とすること」ならびに「経膈分娩を行うために最低限満たすべき条件」については産科医療職を中心に 0-4 の低い合意度を示している者（自由記載欄への記載はなし）もあり、直接分娩を扱う医療者において幅広い意見が有ることがうかがえた。今後、これらの低い合意度を示す者の意見を把握して、今後の啓発に結びつけることが課題と考えられた。

4) これら結果を反映し「一般的に HIV 感染妊婦の経膈分娩を受け入れる施設が国内に必

要と考えますか」と言う問に対しては、88%が必要と回答する感染症関連医療職と、51%前後しか必要と考えない(21%前後は不要と考える)分娩を担当する産科医療職との考え方に大きな違いがあることが改めて確認された。

- 5) 「ガイドラインでさらに踏み込んで経膈分娩を推奨すべきでしょうか」の問に対する回答状況からは、現状では今まで以上に経膈分娩を強く推奨することは困難であることがうかがえた。逆に今のままで良いという意見も全体の51%にとどまり、どの職種でも回答が割れる結果となった。自由回答では実際に受け入れ施設が明らかでないので判断が難しい、実際にニーズがあるかどうか分からないという意見もあり、患者ニーズの調査も必要と考えられた。実際に諸外国でのガイドラインでも分娩方法の選択は最終的に患者の希望に添うことが奨められている。
- 6) 経膈分娩を行ううえでの条件としては日勤帯の計画分娩とするものが過半数を占め、その割合は周産期関係看護職、そして小児科に関わる者で多い傾向があった。看護師においては、医師よりも日勤帯と夜勤帯の体制の差を考慮する者が多いこと、そして産科以上に新生児の管理において日勤帯での分娩が望まれている実態が明らかとなった。

全体として産科担当看護職が経膈分娩に前向きになれない現状があるものと思われた。実際に HIV 患者を受け入れる施設は周産期センターが多く、そういった施設では経膈分娩より帝王切開の方が多くなっている現状、それに伴って(特に若手)助産師の分娩介助の経験数が減少している事も関連していることが考えられ、国内の周産期医療の現状からはやむを得ない部分もあると考えられる。

これらの問題は啓発活動だけでは解決しない問題を含んでおり、働き方改革が進む中で、さらなる集約化など産科医療全体としての変

化が必要な問題も含まれるものと考えられた。また、平日日勤帯での分娩ニーズは高く、特に新生児に関連する職種でより高いニーズがあり、新生児に対する処置が大変であると考えられているのではないかと考えられる。

また、周産期に関わる医療職と感染症担当医療職の間には意見の異なる部分があり、特に本ガイドラインで帝王切開を第一に記載していることに対しては感染症担当医療職での合意度は低かった。周産期に関わる医療職のみならず、感染症担当医療職にも理解を得るためには、帝王切開を第一に記載する理由についてより根拠が必要かと思われた。国内での症例数、実際に夜間に HIV 妊婦の出産があったときに追加で必要となる人員(医師、看護師)、そしてその人材を24時間・365日確保するための人件費など、医療コストの点からも議論が必要で、最低限の人員で維持されている周産期医療施設においては HIV 妊婦の経膈分娩は大きな負担となる可能性も否定できない。

E. 結論

今回のアンケート調査ではガイドラインの記載に概ね同意が得られていることが確認された。ただ、感染症担当医療職の間では帝王切開を第一に記載していることについて疑問を感じる者も少なくないことから、その根拠をより明確にする必要があると考えられる。

今回のガイドラインで経膈分娩をより強く推奨すべきか、という観点では、専門家の中でも意見の集約が不十分で、周産期に関わる職種、特に看護職で否定的な意見が多いことから、時期尚早であると考えられる。経膈分娩の普及に当たっては看護職の啓発とサポート(実際的な助産マニュアル・指針などを含む)が重要になってくると考えられた。実施に当たっては新生児の処置も負担になっている可能性があり、経膈分娩可能な母体からの児に対する新生児処置のエビデンスに基づく簡略化も必要と考えられた。

現時点では、経膈分娩を広く多数の施設で実施していくよりも、まずは限定した施設に経膈分娩を集約し、実際の助産、分娩介助から得られた気づきなどを含む助産マニュアル・指針を整備し、助産師からも情報発信していただくことが、医師への啓発活動とともに重要となってくるものと思われる。

G.研究業績

論文

1. 出口雅士、施 裕徳、山田秀人：国内での新型コロナウイルス感染妊婦の現状 妊婦レジストリ研究. 日本産婦人科感染症学会誌. 2021 ; 5 : 8-15.

学会発表

1. 杉浦 敦、市田宏司、山中彰一郎、竹田善紀、中西美紗緒、太田 寛、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、佐久本薫、喜多恒和：近年の HIV 母子感染に対する全国調査結果と EDC 化に向けた検討. 第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会. 新潟 (Web)、2021.4
2. 山中彰一郎、杉浦 敦、石橋理子、市田宏司、太田 寛、岸本倫太郎、小林裕幸、佐久本薫、高野政志、竹田善紀、中西美紗緒、松田秀雄、箕浦茂樹、桃原祥人、藤田 綾、喜多恒和：さらなる HIV 母子感染予防対策構築に向けた検討 HIV 母子感染例の近年の特徴と予防対策の再考. 第 37 回日本産婦人科感染症学会学術集会. Web、2021.5
3. 定月みゆき (シンポジウム)：我が国における HIV 感染妊娠の発生状況と診療体制の構築—厚労省研究班報告から—HIV 感染妊娠への診療体制と国民への教育啓発. 第 37 回日本産婦人科感染症学会学術集会. Web、2021.5
4. 杉浦 敦、市田宏司、山中彰一郎、竹田善紀、中西美紗緒、太田 寛、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、佐久本薫、喜多恒和：

近年の HIV 母子感染に対する全国調査結果と EDC 化に向けた検討. 第 73 回日本産婦人科学会学術講演会. 新潟 (Web)、2021.4

5. 山中彰一郎、杉浦 敦、石橋理子、市田宏司、太田 寛、岸本倫太郎、小林裕幸、佐久本薫、高野政志、竹田善紀、中西美紗緒、松田秀雄、箕浦茂樹、桃原祥人、藤田 綾、喜多恒和：さらなる HIV 母子感染予防対策構築に向けた検討 HIV 母子感染例の近年の特徴と予防対策の再考. 第 37 回日本産婦人科感染症学会学術集会. Web、2021.5
6. 杉浦 敦、竹田善紀、中西美紗緒、市田宏司、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、佐久本薫、吉野直人、喜多恒和：近年の HIV 母子感染例から母子感染予防対策を再考する. 第 57 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 宮崎 (Web)、2021.7
7. 金 蒼美、定月みゆき、中西美紗緒：当院で管理した HIV 感染妊婦の周産期予後の後方視的検討. 第 57 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 宮崎 (Web)、2021.7
8. 金 蒼美、定月みゆき、中西美紗緒、富尾 賢介、兼重昌夫、関 純子、赤松智久、五石圭司：当院で管理した COVID-19 感染妊婦の周産期予後の後方視的検討. 第 57 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 宮崎 (Web)、2021.7
9. 山中彰一郎、杉浦 敦、市田宏司、竹田善紀、中西美紗緒、箕浦茂樹、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、藤田 綾、高橋尚子、吉野直人、山田里佳、田中瑞恵、大津 洋、外川正生、喜多恒和：HIV 感染妊婦に対する母子感染予防対策がもたらした効果. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京 (Web)、2021.11
10. 杉浦 敦、竹田善紀、市田宏司、山中彰一郎、箕浦茂樹、中西美紗緒、桃原祥人、高野政志、小林裕幸、高橋尚子、藤田 綾、山田里佳、吉野直人、大津 洋、田中瑞恵、外川正生、喜多恒和：HIV 感染妊娠における治療薬の推移に関する検討. 第 35 回日本エイズ学会学

術集会・総会．東京（Web）、2021.11

11. 吉野直人、伊藤由子、岩動ちず子、小山理恵、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、大津 洋、定月みゆき、喜多恒和：新型コロナウイルスパンデミックにおける HIV 母子感染予防のための診療体制への影響．第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会．東京（Web）、2021.11
12. 杉野祐子（日本エイズ学会ジョイント（合同）シンポジウム）：HIV 感染妊娠への診療体制に関する全国調査結果と体制構築における課題．日本性感染症学会第 34 回学術大会．Web、2021.11

H.知的財産権の出願・登録状況

- 1.特許取得 該当なし
- 2.実用新案登録 該当なし
- 3.その他 該当なし

2021 年度 HIV 感染妊娠に関する診療ガイドラインと診療体制についてのアンケート

※11. (Q1～Q7) 部分は無記名で、黄色の封筒でご返送頂きます。施設の経膈分娩受け入れ可否等の状況に関係なく、HIV 感染妊婦の分娩取扱施設の医療者として個人的にどうお考えかをお聞かせ下さい

1. HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン 2021 の「分娩方法(分娩様式・時期)」についての記載について伺います。

【Q1】 記入頂いた方の職種をお聞かせ下さい。[該当するもの 1 箇所に✓]

- 産科医、 新生児科医、 感染症科医師
- 産科助産師または看護師、 新生児科助産師または看護師
- 周産期領域以外の助産師または看護師（部署：_____）
- その他（_____）

【Q2】 要約 1「HIV 感染妊婦の分娩方法は、陣痛発来前の選択的帝王切開を推奨する」について 1-9 の当てはまる数字に○をつけて下さい。必要であればご意見を記入下さい。

● 全く同意できない 0-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9 完全に同意する

● ご意見： _____

【Q3】 要約 2「ただし、妊娠 36 週までに HIV RNA 量が検出感度未満に抑えられており、かつ分娩施設が経膈分娩に対応可能な場合に限り、経膈分娩を考慮する」について 1-9 の当てはまる数字に○をつけて下さい。必要であればご意見を記入下さい。

● 全く同意できない 0-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9 完全に同意する

● ご意見： _____

【Q4】 下に示す経膣分娩を行うために最低限満たすべき条件

＜施設基準＞

- ①原則としてエイズ治療拠点病院あるいは周産期母子医療センター（総合・地域）であること。
- ②産科，小児科，感染症内科，手術部および助産師，看護師，薬剤科，検査科などの協力体制ができており，分娩前後の母児の管理が十分に行える施設であること。

＜症例基準＞

- ①妊娠 36 週までに HIV RNA 量が検出感度未満に抑えられていること。
- ②感染症内科受診，産科受診が定期的にできて協力的であること。
- ③産科的な経膣分娩の適応を満たし，本人とパートナーに強い経膣分娩の希望があること。
- ④緊急帝王切開のリスクなども理解し，誘発のタイミング，破水時の対応，帝王切開のタイミング等については施設の方針に従うこと。
- ⑤以上をふまえ，本人とパートナーが説明を受け，同意書を提出していること。

につき 1-9 の当てはまる数字に○をつけて下さい。必要であればご意見を記入下さい。特に 0-6 を付けられた方におかれましては追加すべき条件などをお教え下さい。

- 全く同意できない 0-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9 完全に同意する

● ご意見： _____

【Q5】 自施設の受け入れ可能状況等を考慮せず一般的に考えた場合、HIV 感染妊婦の経膣分娩を受け入れる施設が国内に必要と考えますか。1-9 の当てはまる数字に○をつけて下さい。必要であればご意見を記入下さい。

- 全く必要でない 0-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9 絶対必要である

● ご意見： _____

【Q6】 国内の HIV 妊婦に関するまとまった情報は、当研究班発出のもの以外にはほとんどなく、「HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン」が、日本産科婦人科学会編集の「産婦人科診療ガイドライン産科編」でも引用されてきた実情があります。そのうえで、さらに踏み込んで経膣分娩を推奨すべきでしょうか。1-9 の当てはまる数字に○をつけて下さい。必要であればご意見を記入下さい。

● 今のままで十分 0-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9 より強く推奨すべき

● ご意見： _____

【Q7】 もし、HIV 感染妊婦を取り扱う上で理想的な環境が全勤務帯で整い、医療スタッフの同意のもとで経膣分娩が可能な施設で勤務していると仮定して、実際に妊娠 36 週までに HIV RNA 量が検出感度未満に抑えられている妊婦さんが経膣分娩を希望された場合、経膣分娩の実施に何らかの制限を設けますか。[該当するものに✓、複数選択可]

- 無条件に産科的適応に応じて経膣分娩を実施する
- 計画分娩として平日日勤帯で分娩を完結する（それを超える場合は帝王切開）
- 経膣分娩既往のある経産婦に限る
- その他： _____

以上が「HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン」への同意度に関するアンケートです。このようなアンケート法は、デルファイ法として Minds のガイドライン作成手法にも示されております故、今後も何度か内容を修正しながらアンケートを繰り返し、専門家の意見集約としてガイドライン改訂の際に用いる場合がございます。繰り返しの際も是非ご協力頂けると幸いです。

すべての方へのアンケートは以上です。

お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

以上の黄色のアンケート用紙は同封の黄色の封筒に入れ、無記名でご返送下さい